

令和 4 年度実施  
西条市の学校規模適正化に関するアンケート調査  
報告書（小学校教員向け調査）

令和 5 年 1 月

経営戦略部政策企画課  
教育委員会事務局教育総務課

# 目 次

<b>1</b>	<b>本調査の概要</b> .....	1
<b>2</b>	<b>基本情報</b> .....	2
	（1）性別.....	2
	（2）年齢.....	2
	（3）所属する小学校・地区別.....	3
<b>3</b>	<b>市内小学校の学校規模について</b> .....	4
	（1）法令で標準を下回る学級数の学校勤務経験.....	4
	（2）市内小学校の学校規模について.....	4
	（3）20年前と現在の子どもの数について.....	6
<b>4</b>	<b>小規模校の良さと課題について</b> .....	8
	（1）小規模校の良さ.....	8
	（2）小規模校の課題.....	12
	（3）小規模校における学校運営上の課題.....	15
<b>5</b>	<b>学級数と児童数について</b> .....	19
	（1）1学年あたりで適切だと思う学級数.....	19
	（2）1学級あたりで適切だと思う児童数.....	19
<b>6</b>	<b>学校規模適正化に係る学校再編について</b> .....	20
	（1）将来的に小学校の再編をどのようにしていくべきか.....	20
	（2）小学校の学校再編を進める場合に配慮が必要な点.....	25
	（3）小学校の学校再編を進める場合の通学に関して配慮が必要な点.....	28
<b>7</b>	<b>参考資料（アンケート用紙）</b> .....	32

## 1 本調査の概要

### (1) 調査の目的

本調査は、令和2年度に実施した「西条市の教育に関するアンケート調査」結果において、将来的な子どもたちの教育環境の充実を図るためには一定程度の児童・生徒数、学級数が必要であるとの回答が多い傾向がみられたことから、西条市の次代を担う子どもたちの将来的な学校教育環境の最適化を図ることを目的として実施しました。

### (2) 調査の方法と実施時期

この調査は、市内10の市立小学校に勤務されている教員を対象に実施しました。具体的には、令和4年9月12日に各小学校に調査票を配布し、教員1名につき1通の調査票を配布した上で、9月29日までに各学校で集約していただき、10月4日に回収する方法を採用しました。

### (3) 調査票の回収状況

本調査はすべての対象者に調査票を配布する全数調査の方式を採用しています。

令和4年4月1日現在における市内25市立小学校の勤務されている教員（校長・教頭・主幹教諭・教諭・講師・非常勤講師・養護教諭・養護助教諭・栄養教諭）は465名であり、そのうち回収した調査票は441通、回収率は94.8%となったことから、本調査の信頼度は極めて高いと言えます。

### (4) 調査票の内容

送付した調査票は文末に掲載しています。

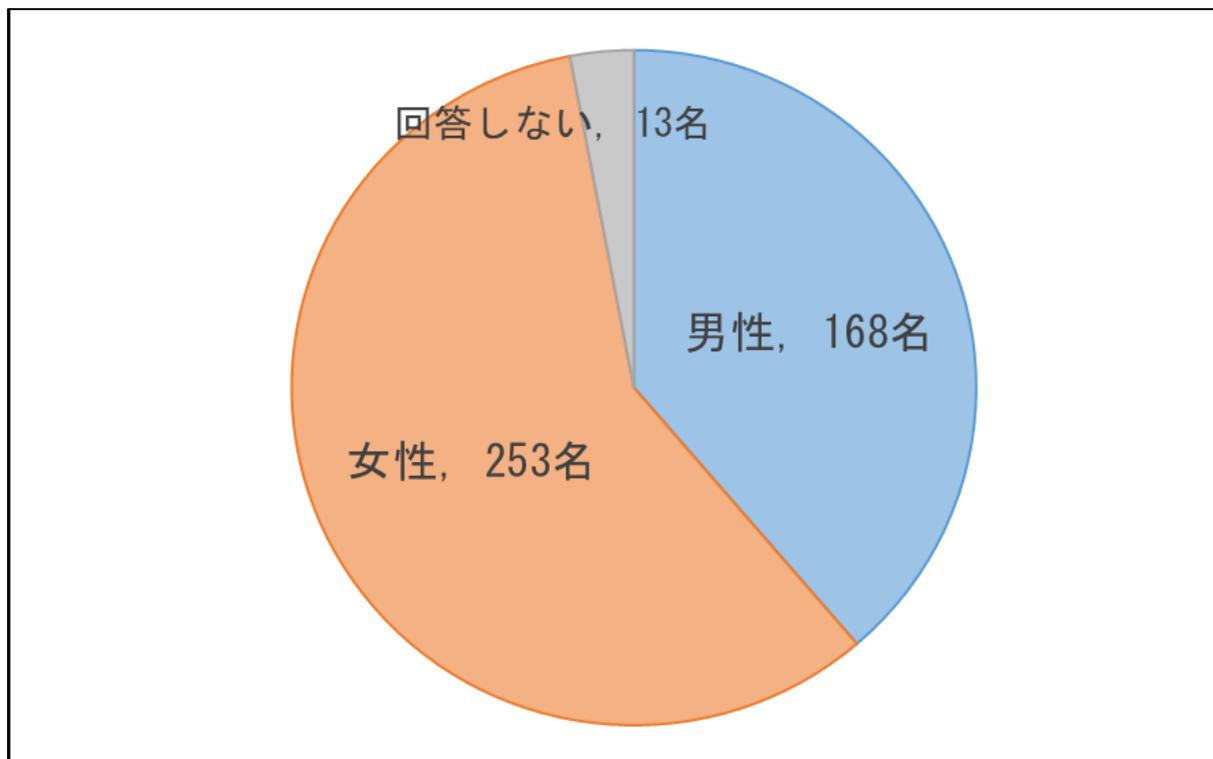
### (5) その他

各図表のデータ処理にあたりましては、当該質問項目に対して無回答であった方を除いて処理を行っていますので、必ずしも合計値と回収した調査票数が一致するとは限りません。また、構成比率につきましても、それぞれの項目ごとの構成比を小数点以下第2位で四捨五入していますので、必ずしも構成比の合計値が100%になるとは限りません。

## 2 基本情報

### (1) 性別

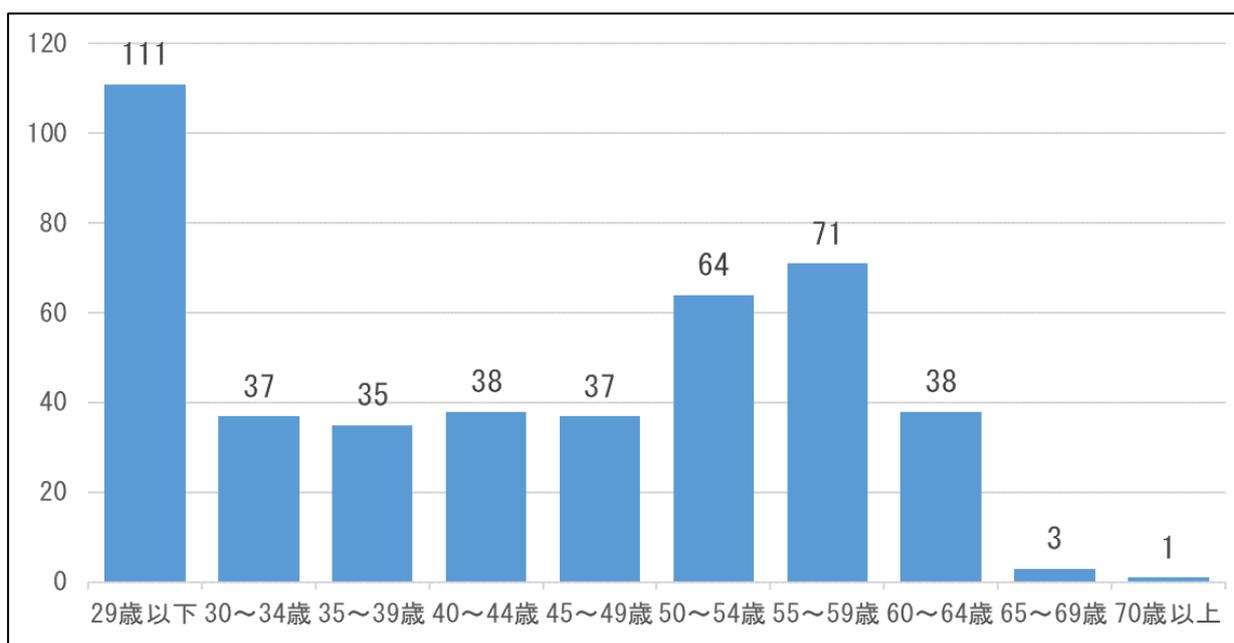
図表 2-1 によると、回答者のうち男性は 168 名、女性は 253 名、回答しないが 13 名となりました。



図表 2 - 1 回答者の性別 (N = 4 3 4)

### (2) 年齢

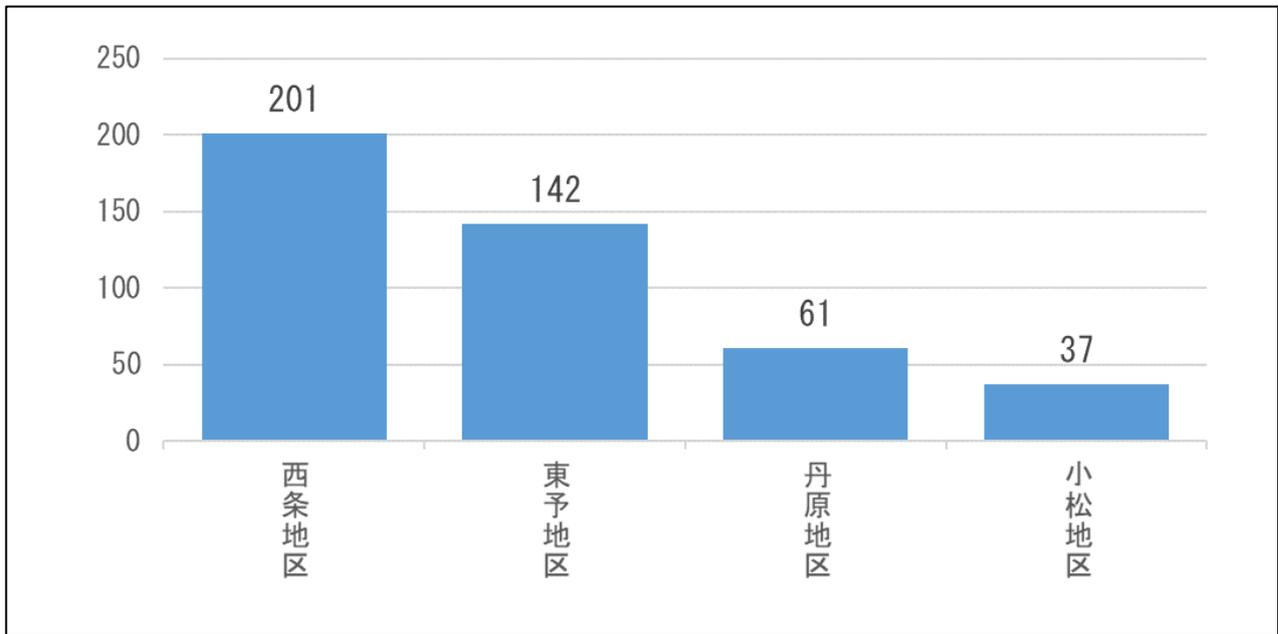
図表 2-2 によると、29 歳以下の教員からの回答が最も多くなりました。



図表 2 - 2 回答者の年齢 (N = 4 3 5)

### (3) 所属する小学校・地区別

図表 2-3 によると、回答者は西条地区の小学校に勤務する教員が最も多く、次いで東予地区、丹原地区、小松地区となりました。地区ごとに違いがありますが、本調査は概ね市内 25 の市立小学校に勤務されている教員の意見がバランスよく反映されています。

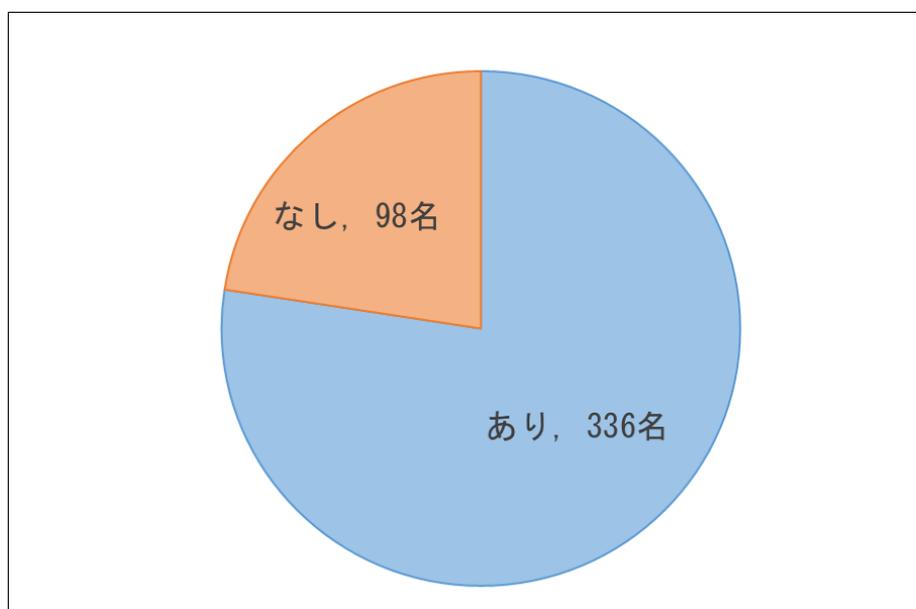


図表 2 - 3 所属する小学校・地区別 (N = 4 4 1)

### 3 市内小学校の学校規模について

#### (1) 法令で標準を下回る学級数の学校勤務経験

図表 3-1 によると、法令で定める標準を下回る学級数（1校あたり11学級以下）の学校での勤務経験について、約77%の方が「あり」と回答しました。



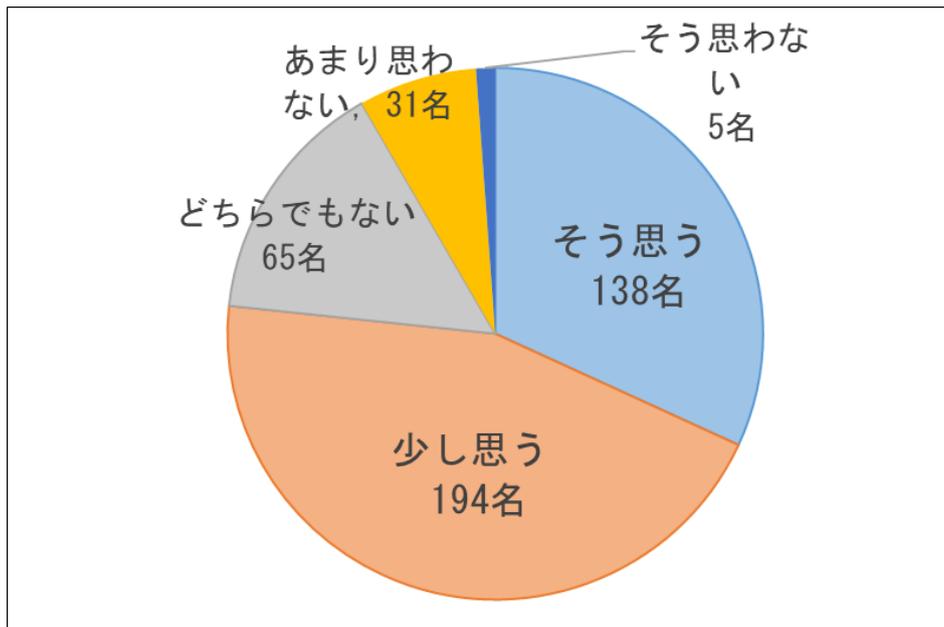
図表 3-1 法令で標準を下回る学級数の学校勤務経験の有無 (N=434)

#### (2) 市内小学校の学校規模について

##### **【結果概要】**

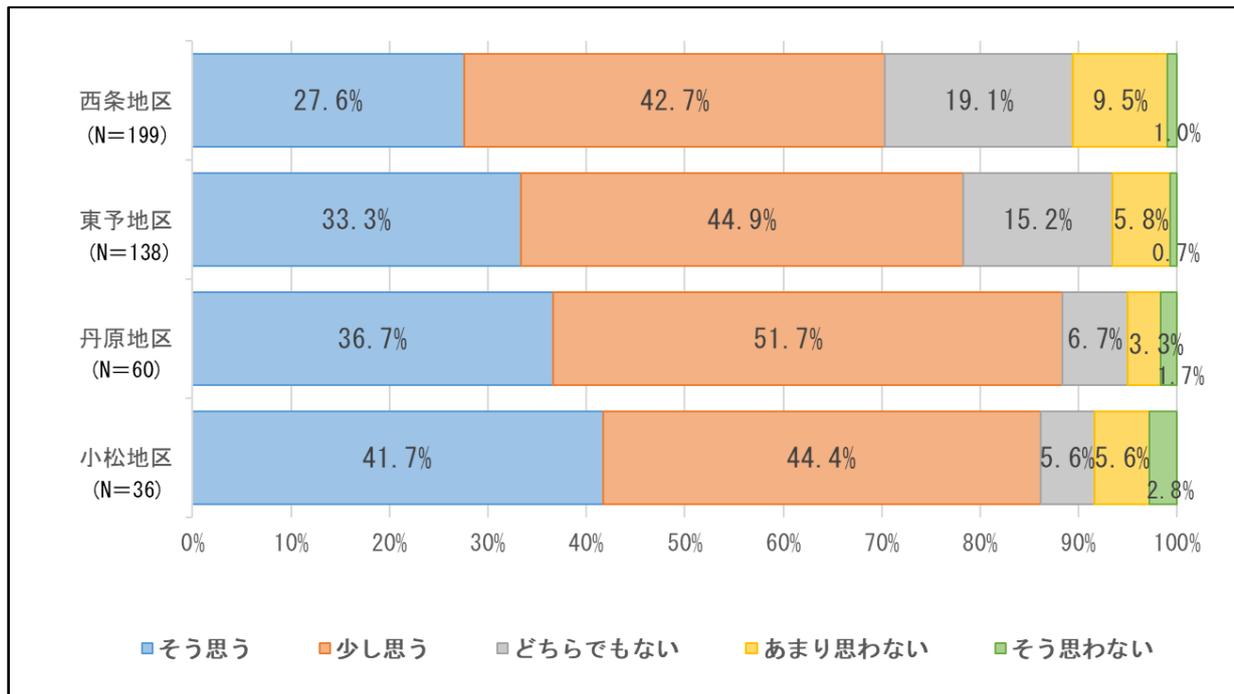
- 小さい規模の小学校が多いと感じている回答が約7割を占める結果となりました。(図表 3-2 参照)
- 地区別では、丹原・小松地区の回答は、西条地区、東予地区の回答に比べて、小さい規模の学校が多いと感じている方が多い傾向がみられました。(図表 3-3 参照)
- 大規模な小学校では小さい規模の学校が多いと感じる回答が68.2%だったのに対し、小規模な小学校では80.4%と回答する比率が高い傾向がみられました。(図表 3-4)

図表 3-2 によると、「そう思う」「少し思う」と回答した方が最も多く、小さい規模の小学校が多いと感じている回答が多くなりました。



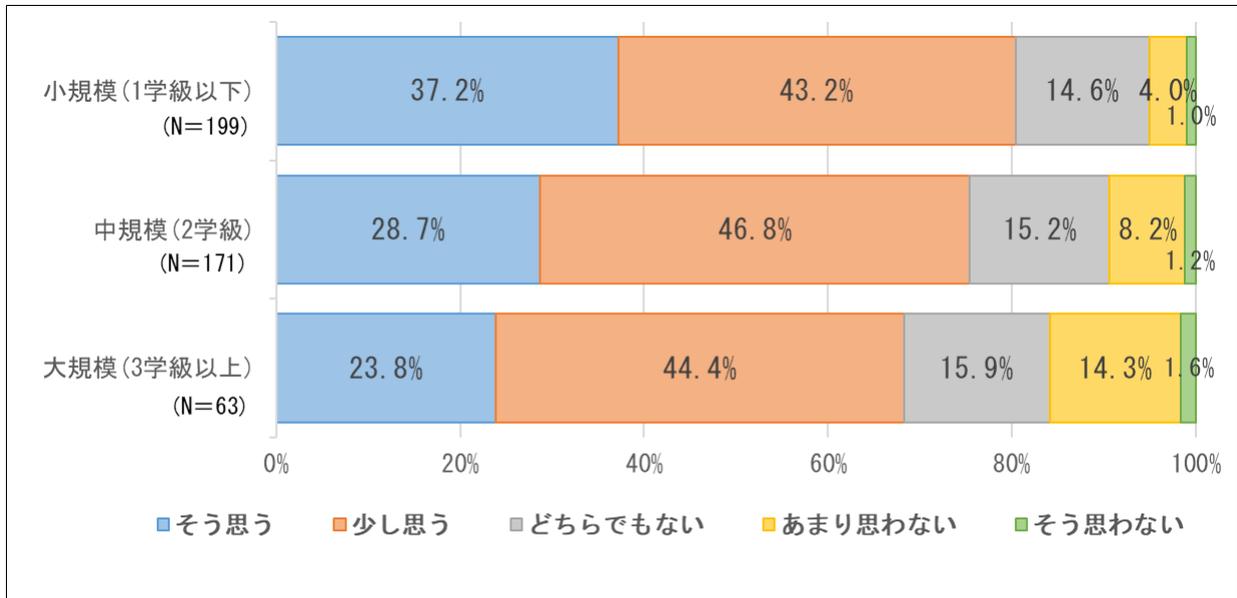
図表 3-2 小さい規模の小学校が多いと感じる (N=433) (単純集計)

図表 3-3 によると、すべての地区で「そう思う」「少し思う」の比率が高くなり、中でも、丹原地区と小松地区においては他の地区に比べてもさらに回答した比率が高くなる傾向がみられました。



図表 3-3 小さい規模の小学校が多いと感じる (所属する小学校の地区別)

図表 3-4 によると、全体で「そう思う」「少し思う」の比率が高く、その内訳では、大規模校に勤務される方が 68.2%の回答に対し、中規模校に勤務される方の回答が 75.5%、小規模校に勤務される方の回答が 80.4%となりました。勤務される学校の規模が小さいほど、小さい規模の小学校が多いと感じる回答が多くなる傾向がみられました。



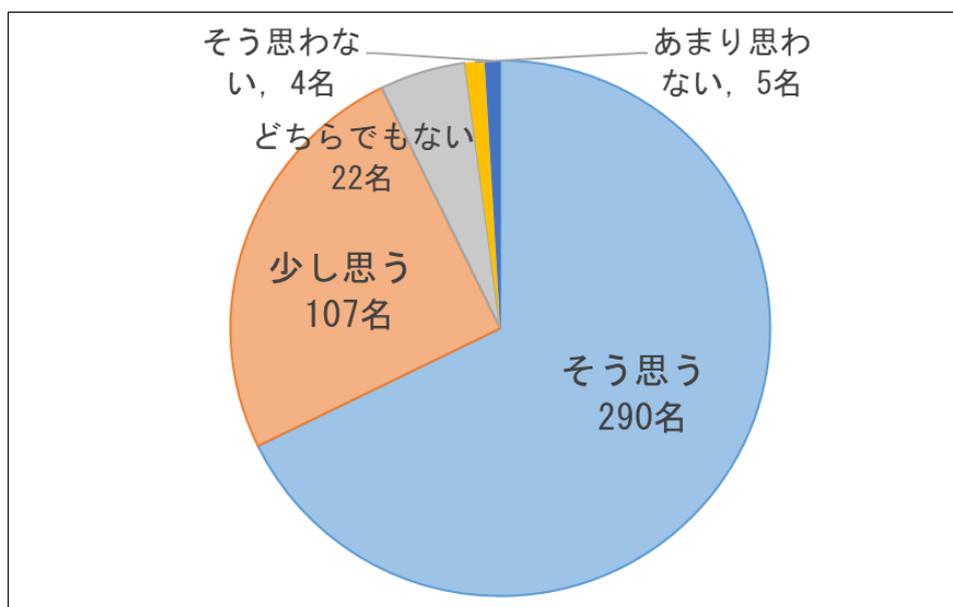
図表 3-4 小さい規模の小学校が多いと感じる（所属する小学校の6年生規模別）

(3) 20年前と現在の子どもの数について

**【結果概要】**

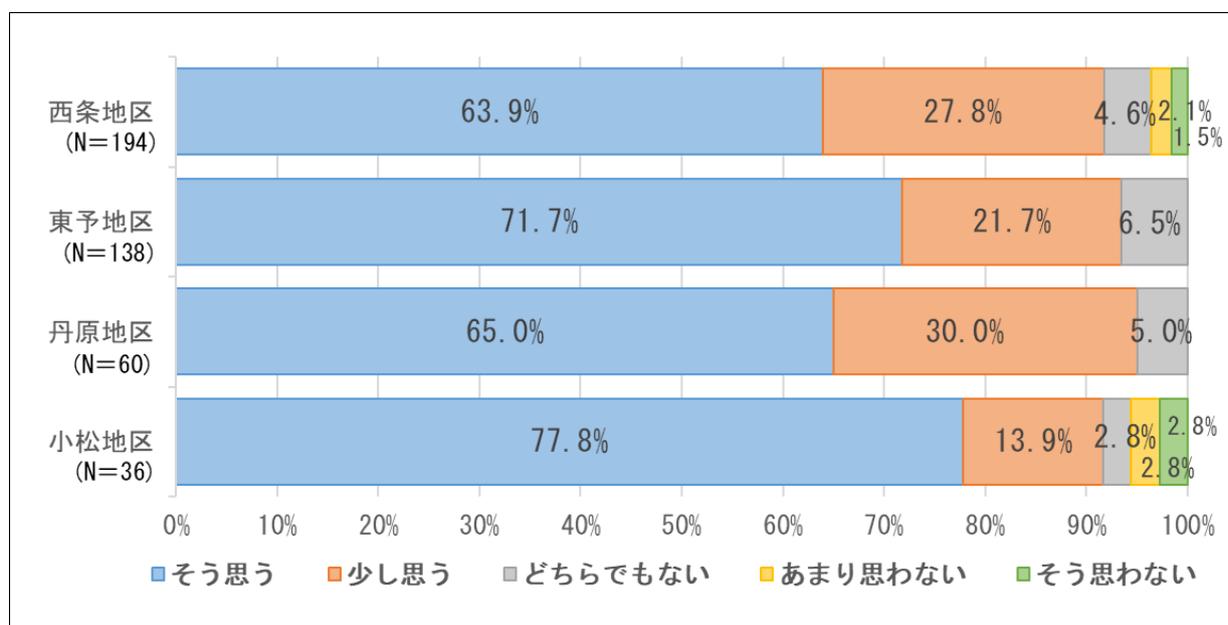
- 20年前に比べて子どもの数が少なくなったと感じると回答した方が約9割を占めました。（図表 3-5 参照）
- すべての地区において、20年前に比べて子どもの数が少なくなったと感じている方が多い結果となりました。（図表 3-6 参照）
- 勤務される学校の規模にかかわらず、20年前に比べると子どもの数が少なくなったと感じている方が多い結果となり、児童数の減少について課題だと感じている方が多い傾向がみられました。（図表 3-7 参照）

図表 3-5 によると、「そう思う」「少し思う」の方の回答が約9割となり、20年前に比べると子どもの数が少なくなったと感じている方の回答が大半を占める結果となりました。



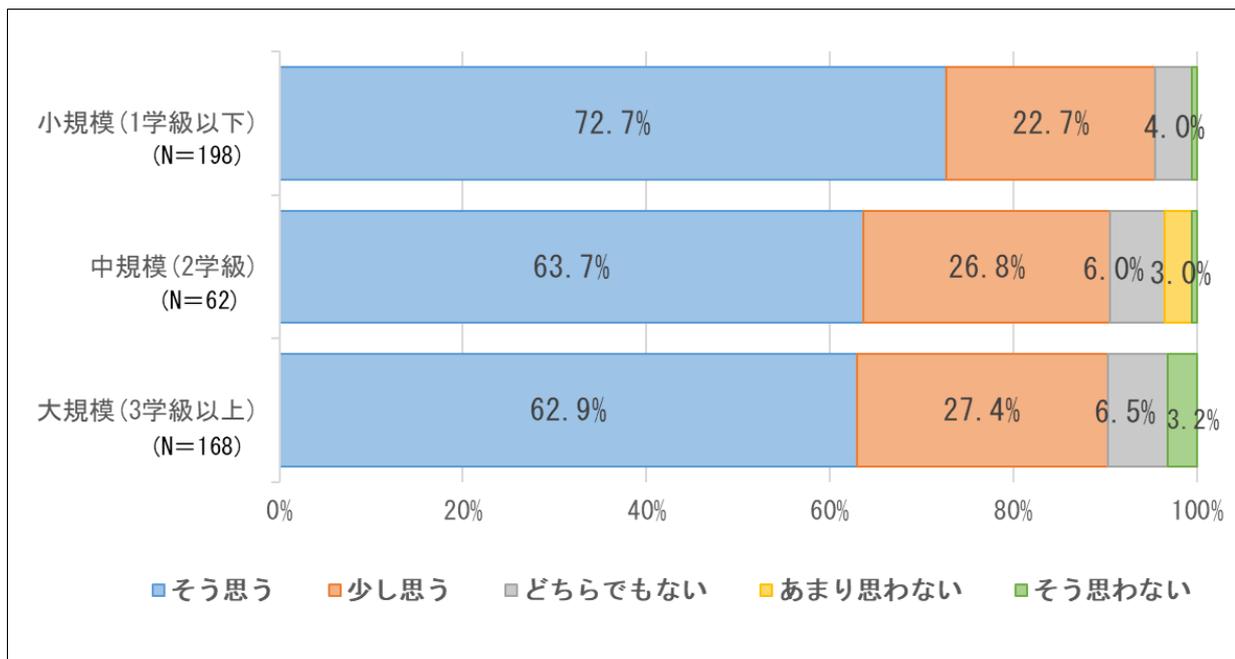
図表 3-5 20年前に比べると子どもの数が少なくなったと感じる (N=428) (単純集計)

図表 3-6 によると、「そう思う」「少し思う」の方の回答の比率が高くなり、いずれの地区においても 9 割を超える結果となりました。



図表 3-6 20年前に比べると子どもの数が少なくなったと感じる (N=428)  
(所属する小学校の地区別)

図表 3-7 によると、「そう思う」「少し思う」の方の回答の比率が高くなり、いずれの規模においても 9 割を超える結果となりました。勤務される学校の規模にかかわらず、20 年前に比べると子どもの数が少なくなったと感じている方が多い結果となりました。



図表 3-7 20年前に比べると子どもの数が少なくなったと感じる (N=428)  
(所属する小学校の6年生規模別)

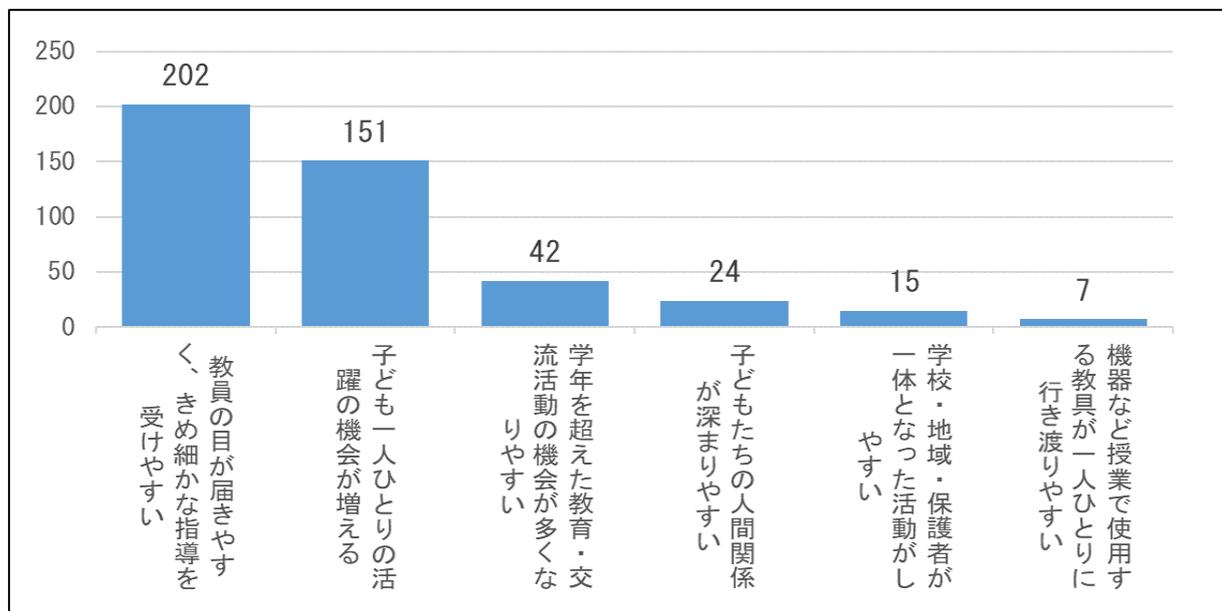
## 4 小規模校の良さと課題について

### (1) 小規模校の良さ

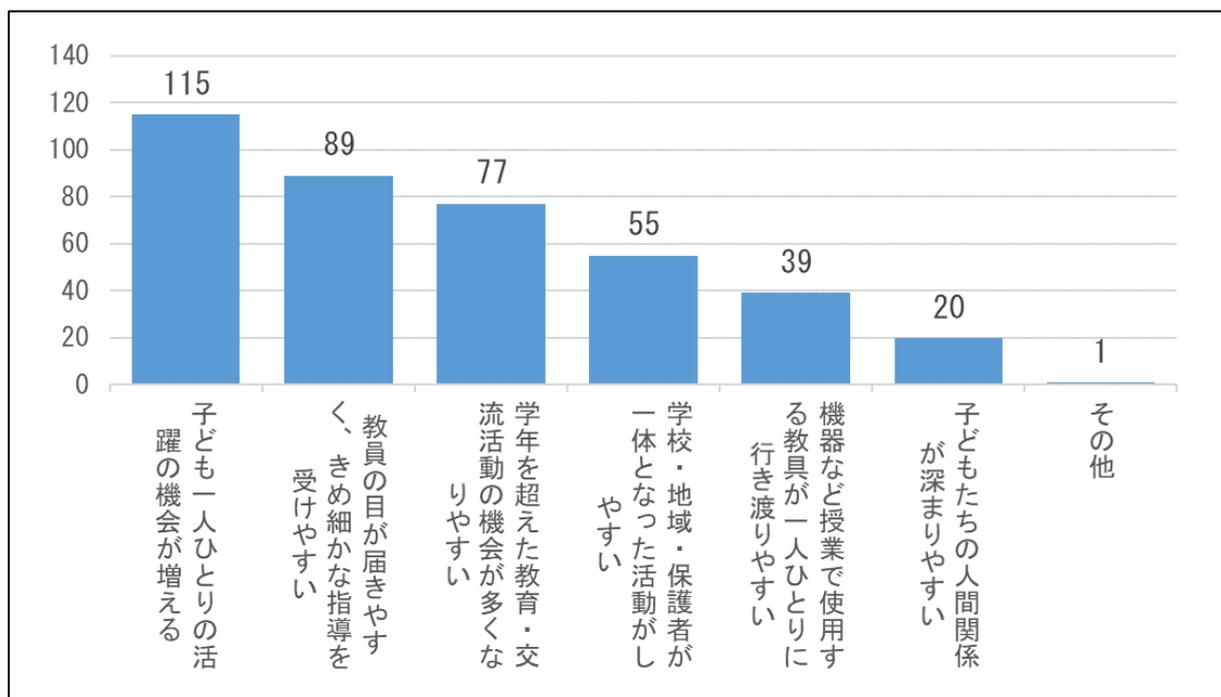
#### 【結果概要】

- 教員のきめ細かな指導や、子どもの活躍の場が増えると感じている方が多い一方で、授業で使用する機器の行きわたりやすさや、地域の一体感を醸成するような機能を期待する方が少ない傾向がみられました。(図表 4-1、4-2 参照)
- 男女別、地区別では回答に大きな差異はみられなかったものの、教員のきめ細かな指導が受けやすい、次いで子どもの活躍機会や他学年との交流機会が多い部分がメリットであると回答する方が多くなりました。また、年齢別では、30~39歳で学年を超えた教育・交流活動の機会がメリットであると回答する比率が他の年代と比べて高くなる傾向がみられました。(図表 4-3、4-4、4-5 参照)
- 大規模な小学校では、特に教員のきめ細かな指導や子どもの活躍機会の増加を重視する傾向がみられました。(図表 4-6 参照)

図表 4-1 によると、第 1 選択では「教員の目が届きやすく、きめ細かな指導を受けやすい」と回答した方が最も多くなり、次いで「子ども一人ひとりの活躍の機会が増える」と回答した方が多くなりました。また、図表 4-2 によると、第 2 選択では「子ども一人ひとりの活躍の機会が増える」と回答した人が最も多くなり、次いで「教員の目が届きやすく、きめ細かな指導を受けやすい」と回答した方が多くなりました。

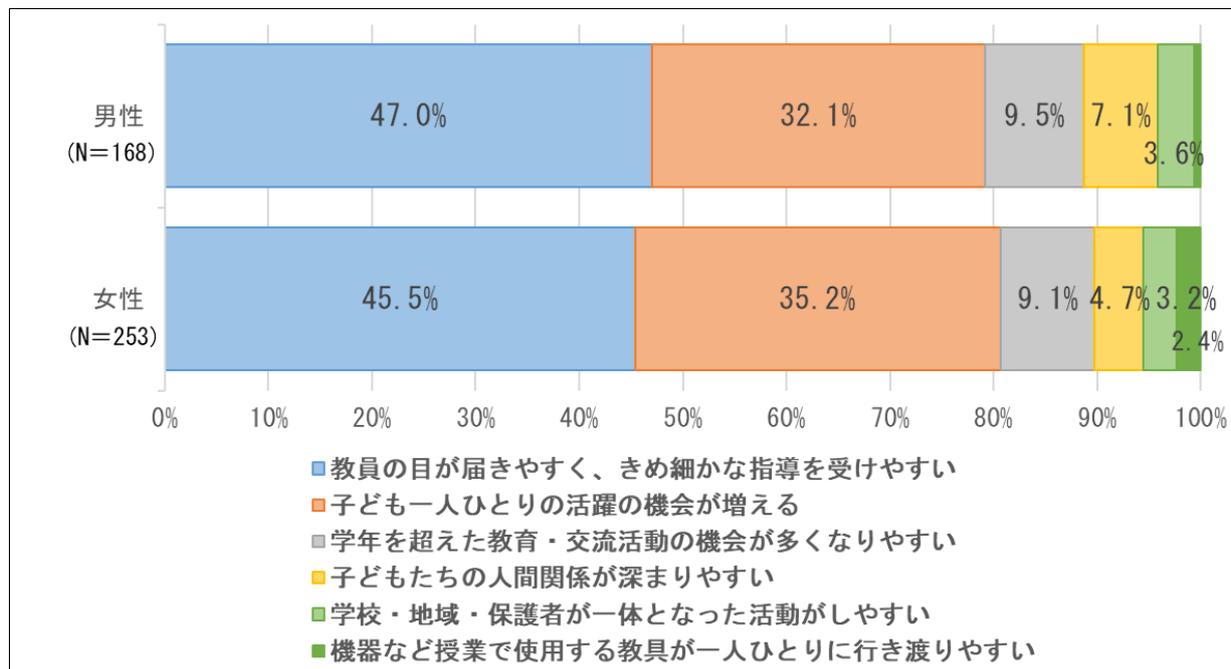


図表 4-1 小規模校の良さ（第 1 選択・単純集計）（N = 441）



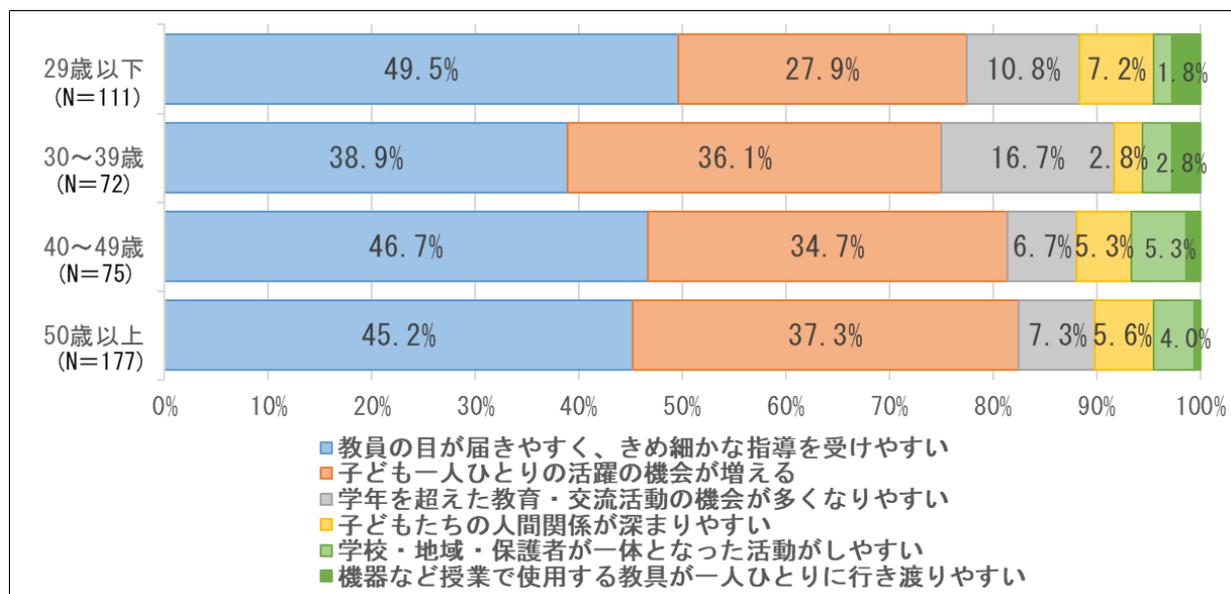
図表 4-2 小規模校の良さ（第 2 選択・単純集計）（N = 396）

図表 4-3 によると、男女とも「教員の目が届きやすく、きめ細かな指導を受けやすい」と回答した比率が最も高くなり、次いで「子ども一人ひとりの活躍の機会が増える」と回答した比率が高くなり、男女別で大きな違いはみられませんでした。



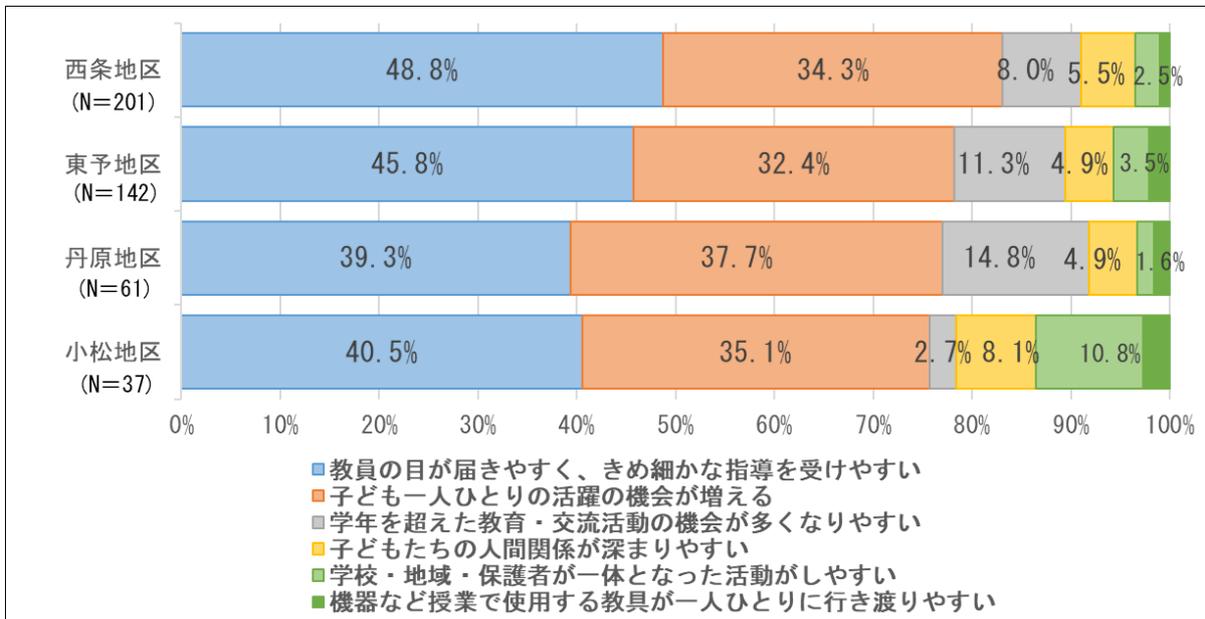
図表 4-3 小規模校の良さ（第1選択・男女別）

図表 4-4 によると、全体では「教員の目が届きやすく、きめ細かな指導を受けやすい」と回答した比率が最も高くなり、次いで「子ども一人ひとりの活躍の機会が増える」と回答した比率が高くなりました。30～39歳の年齢では、「学年を超えた教育・交流活動の機会が多くなりやすい」と回答した比率が他より高くなりました。



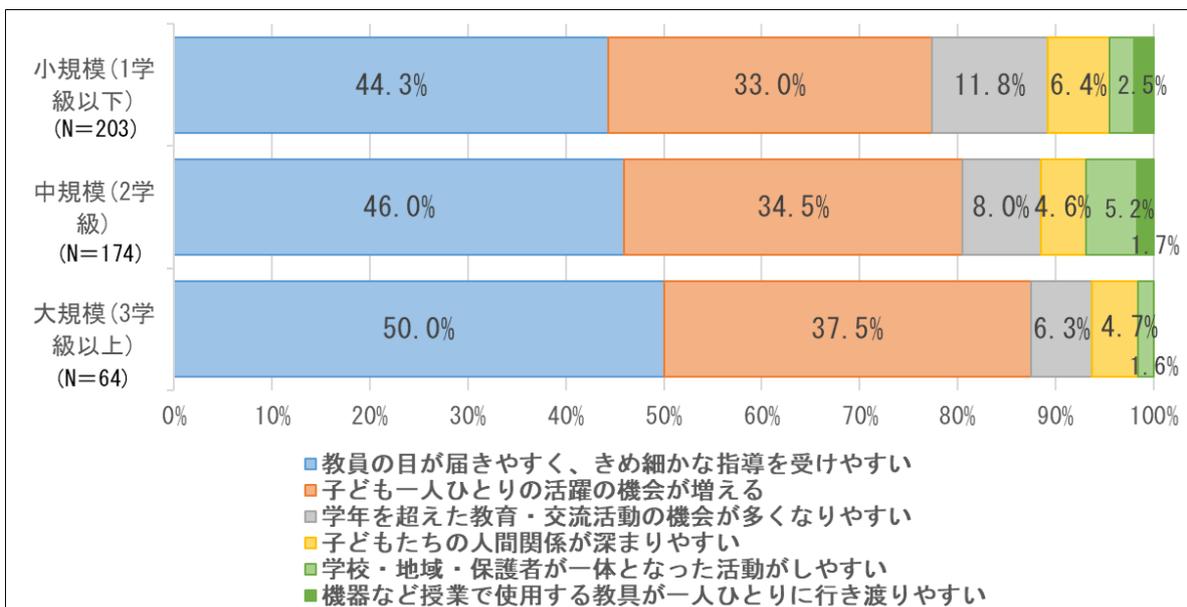
図表 4-4 小規模校の良さ（第1選択・年齢別）

図表 4-5 によると、すべての地区で「教員の目が届きやすく、きめ細かな指導を受けやすい」と回答した比率が最も高くなり、次いで「子ども一人ひとりの活躍の機会が増える」と回答した比率が高くなりました。3番目に比率が高い項目について、西条地区、東予地区、丹原地区は「学年を超えた教育・交流活動の機会が多くなりやすい」であるのに対し、小松地区は「学校・地域・保護者が一体となった活動がしやすい」と回答した比率が高くなる結果となりました。



図表 4-5 小規模校の良さ（第1選択・所属する小学校の地区別）

図表 4-6 によると、すべての小学校の規模で「教員の目が届きやすく、きめ細かな指導を受けやすい」と回答した比率が最も高くなり、次いで「子ども一人ひとりの活躍の機会が増える」と回答した比率が高くなりました。小学校の規模が大きくなるほど、上位2項目の回答比率が高くなる傾向がみられました。



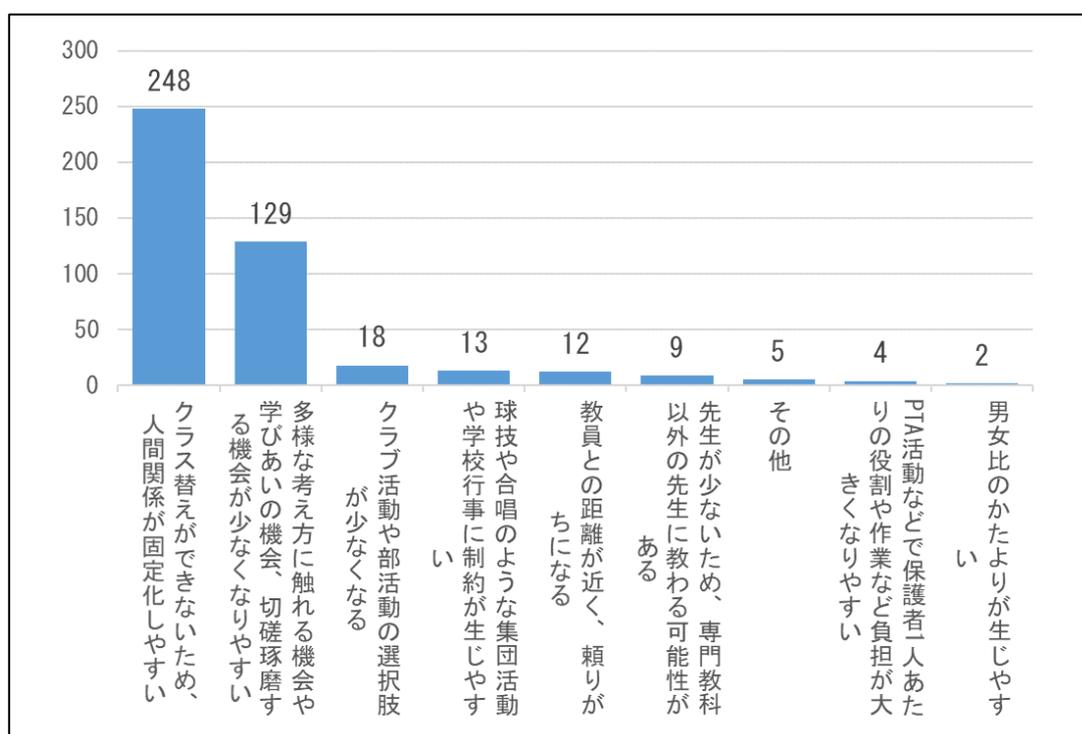
図表 4-6 小規模校の良さ（第1選択・所属する小学校の6年生規模別）

## (2) 小規模校の課題

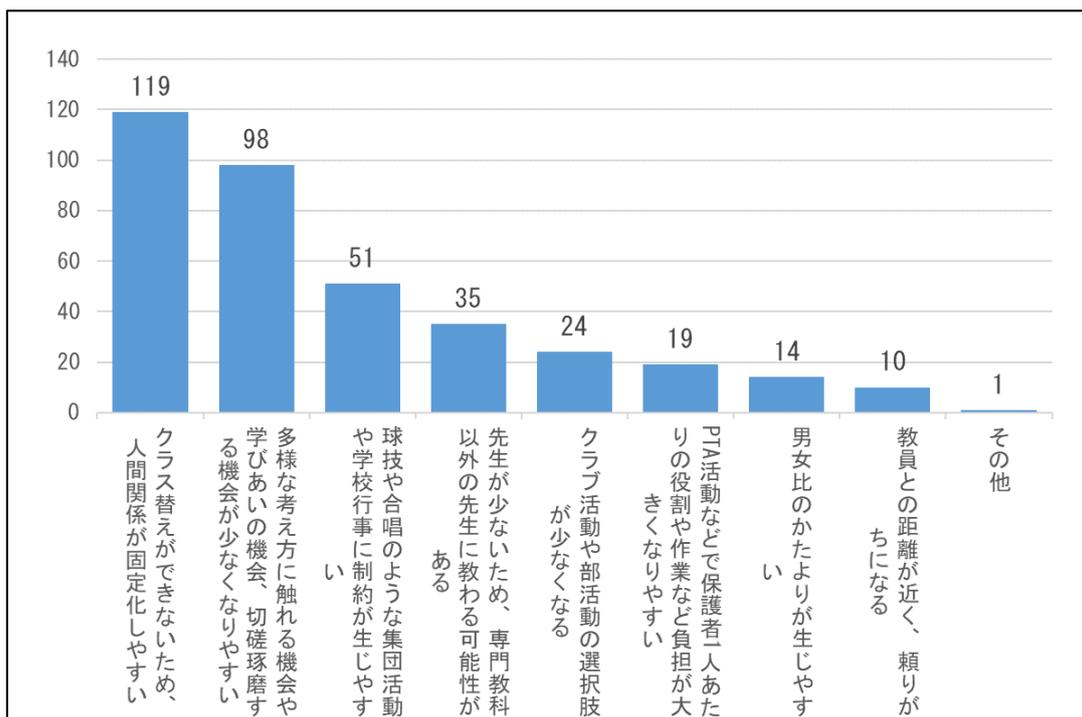
### 【結果概要】

- 人間関係の固定化や多様な考え方に触れる機会の減少、先生が少なくなる事による授業の質の低下など、教育を通じた人間形成に資する環境を重視する回答が多い傾向がみられました。(図表 4-7、4-8 参照)
- 男女別で回答に大きな差異はみられなかったものの、年齢別では特に 50 歳以上の年齢において、クラス替えができないため、人間関係が固定化しやすいと回答した比率が高く、クラス替えによる環境の変化が重要だと考えている方が多い傾向がみられました。(図表 4-9、4-10 参照)
- 小、中規模の小学校では、多様な考え方に触れる機会や学びあいの機会、切磋琢磨する機会が少なくなりやすいと回答する比率が大規模の小学校より高く、多様な考え方に触れる機会が減少することを懸念されている方が多い傾向がみられました。(図表 4-12 参照)

図表 4-7 によると、第 1 選択では「クラス替えができないため、人間関係が固定化しやすい」と回答した方が最も多くなり、次いで「多様な考え方に触れる機会や学びあいの機会、切磋琢磨する機会が少くなりやすい」と回答した方が多くなりました。また、図表 4-8 によると、第 2 選択も第 1 選択と同様に、「クラス替えができないため、人間関係が固定化しやすい」「多様な考え方に触れる機会や学びあいの機会、切磋琢磨する機会が少くなりやすい」と回答した方が多くなりました。

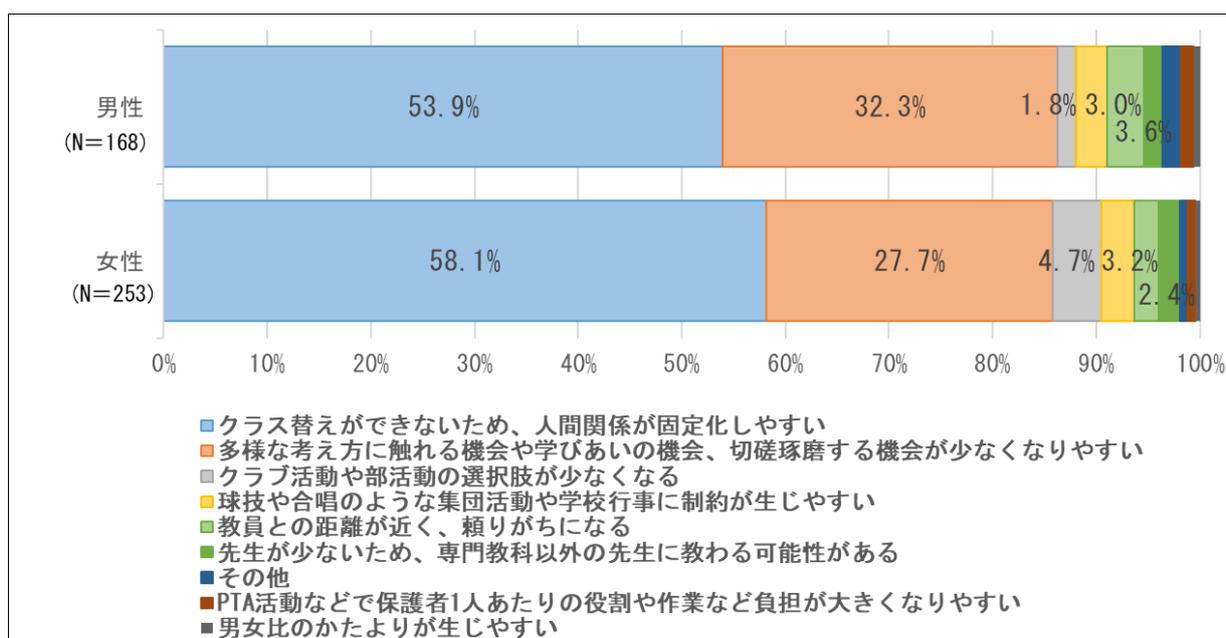


図表 4-7 小規模校の課題 (第 1 選択・単純集計) (N = 440)



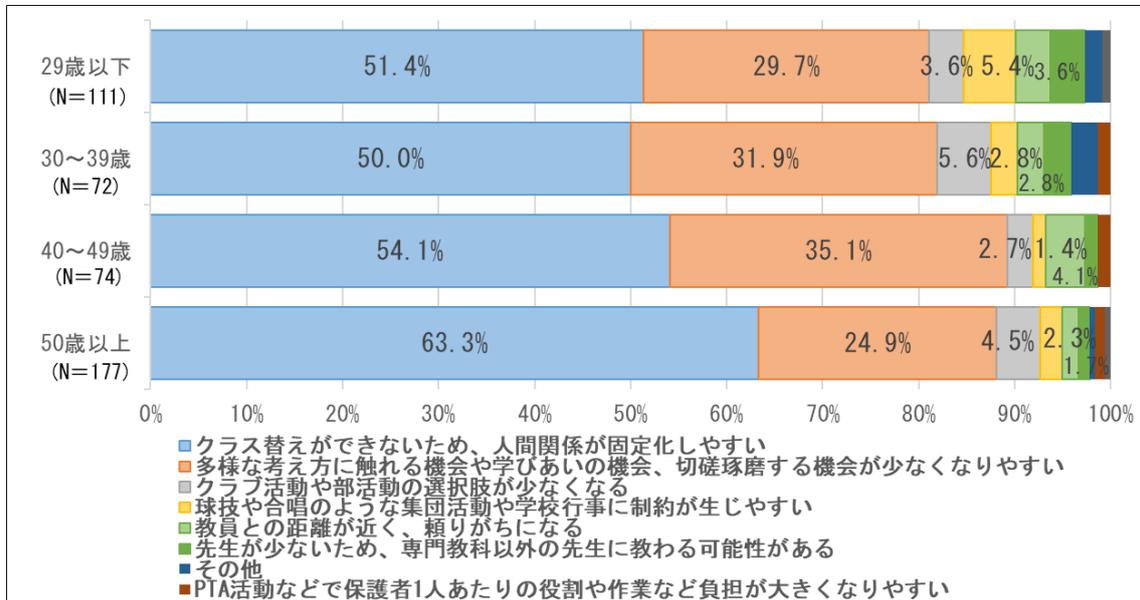
図表 4-8 小規模校の課題（第2選択・単純集計）（N=371）

図表 4-9 によると、男女とも「クラス替えができないため、人間関係が固定化しやすい」と回答した比率が最も高くなり、次いで「多様な考え方に触れる機会や学びあいの機会、切磋琢磨する機会が少なくなりやすい」と回答した比率が高くなり、男女別で大きな差はみられませんでした。



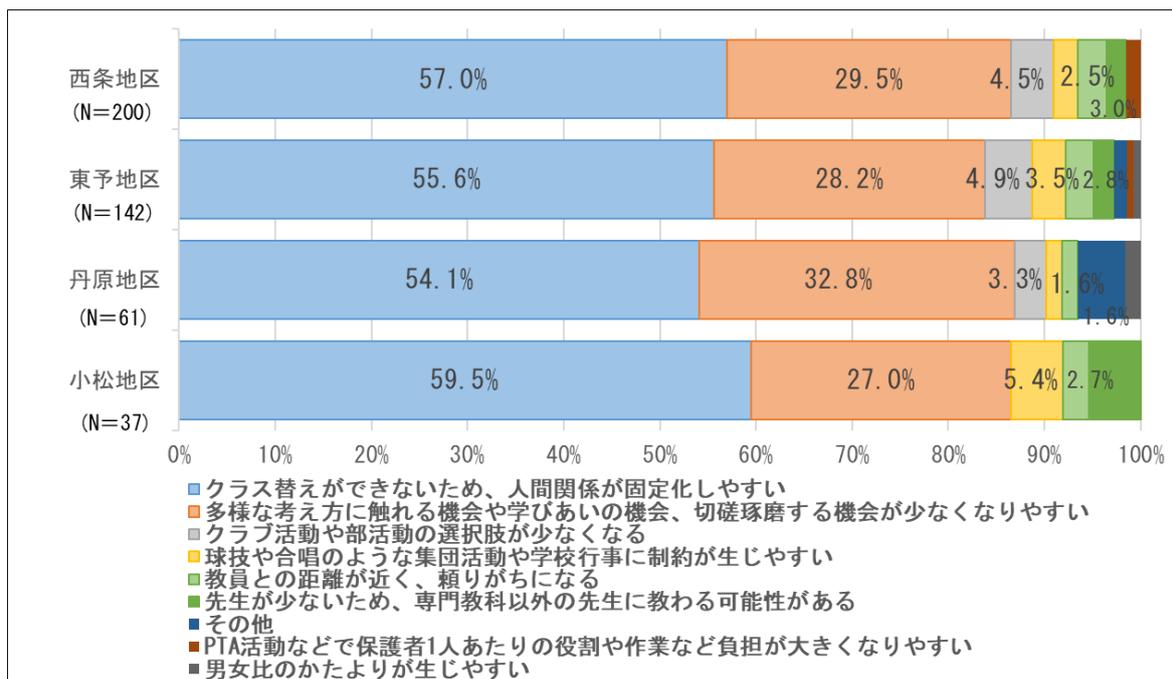
図表 4-9 小規模校の課題（第1選択・男女別）

図表 4-10 によると、全体では「クラス替えができないため、人間関係が固定化しやすい」と回答した比率が最も高くなり、次いで「多様な考え方に触れる機会や学びあいの機会、切磋琢磨する機会が少なくなりやすい」と回答した比率が高くなりました。特に 50 歳以上の年齢において、「クラス替えができないため、人間関係が固定化しやすい」と回答した比率が高い傾向がみられました。



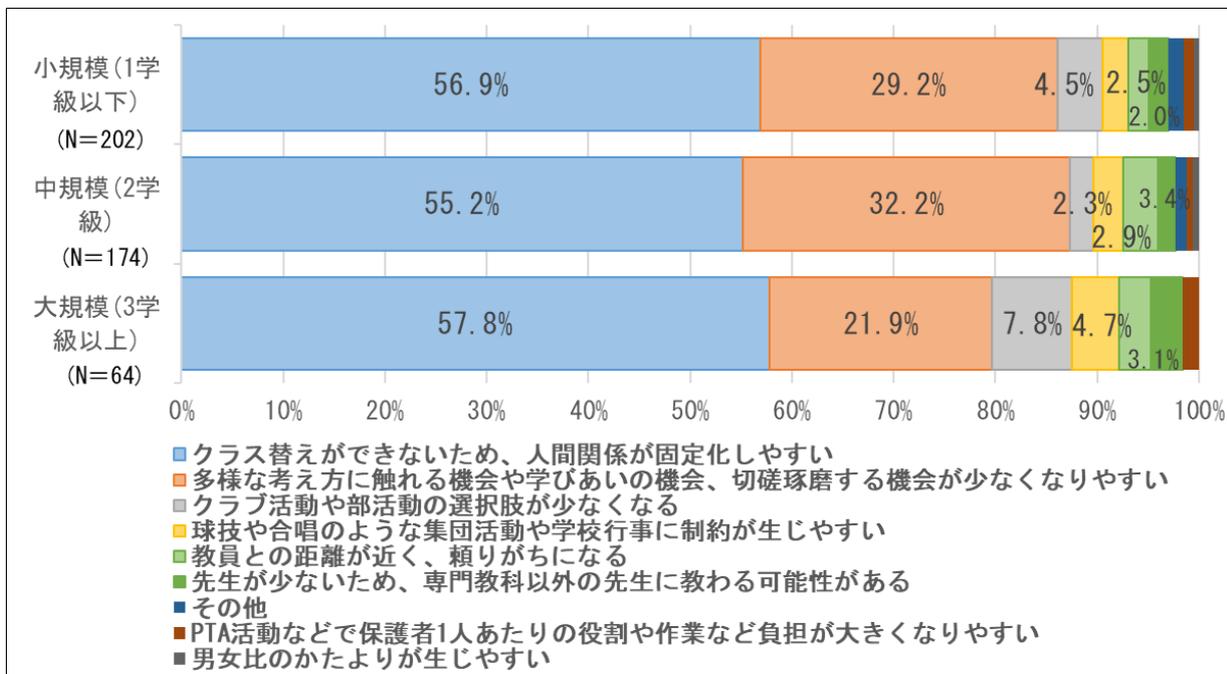
図表 4-10 小規模校の課題（第1選択・年齢別）

図表 4-11 によると、全体では「クラス替えができないため、人間関係が固定化しやすい」と回答した比率が最も高くなり、次いで「多様な考え方に触れる機会や学びあいの機会、切磋琢磨する機会が少なくなりやすい」と回答した比率が高くなりました。一方、小松地区では「球技や合唱のような集団活動や学校行事に制約が生じやすい」と回答した比率が他の地区に比べて高い傾向がみられました。



図表 4-11 小規模校の課題（第1選択・所属する小学校の地区別）

図表 4-12 によると、すべての小学校の規模で「クラス替えができないため、人間関係が固定化しやすい」と回答した比率が最も高くなり、次いで「多様な考え方に触れる機会や学びあいの機会、切磋琢磨する機会が少なくなりやすい」と回答した比率が高くなりました。特に、小規模（1学級以下）や中規模（2学級）では「多様な考え方に触れる機会や学びあいの機会、切磋琢磨する機会が少なくなりやすい」と回答する比率が大規模（3学級以上）より高い傾向がみられました。



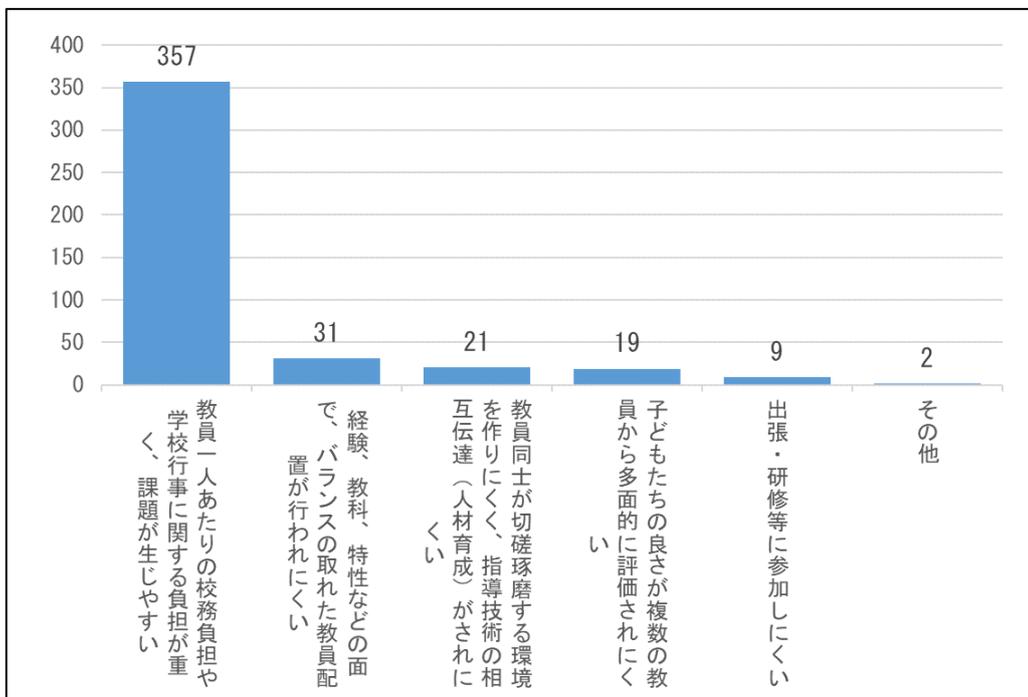
図表 4-12 小規模校の課題（第1選択・所属する小学校の6年生規模別）

### （3）小規模校における学校運営上の課題

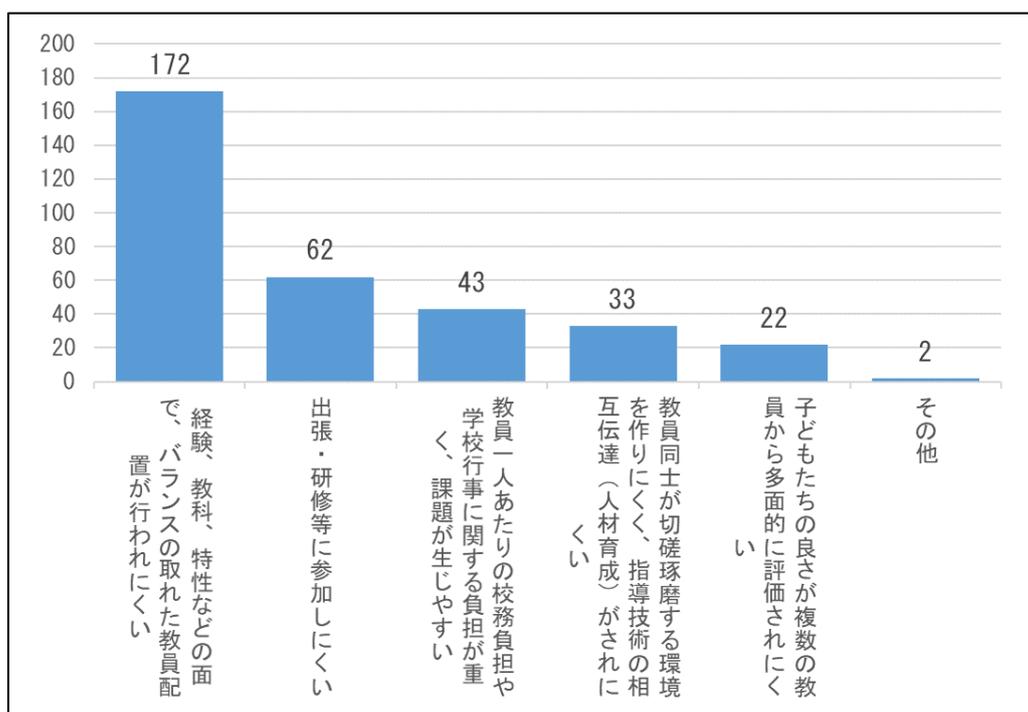
#### 【結果概要】

- 教員が少なくなることで教員一人あたりの負担が増加する点や、バランスの取れた学校運営を図っていくための教員配置が行われにくくなる点、出張・研修等に参加しにくいなど、教員配置数が減少することによる学校運営に係る質の低下を懸念する回答が多い傾向がみられました。（図表 4-13、4-14 参照）
- 年齢が高くなるにつれて学校運営上バランスの取れた教員配置や教員同士が切磋琢磨する環境を重視する傾向がみられましたが、逆に年齢が低くなるにつれて、教員一人あたりの負担が増えることによる新たな課題が発生することを懸念している方が多い傾向がみられました。（図表 4-16 参照）
- 教員一人あたりの負担についての回答は、小規模な学校で重視している方が多い傾向がみられました。（図表 4-18 参照）

図表 4-13 によると、第 1 選択では「教員一人あたりの校務負担や学校行事に関する負担が重く、課題が生じやすい」と回答した方が最も多くなり、次いで「経験、教科、特性などの面で、バランスの取れた教員配置が行われにくい」と回答した方が多くなりました。また、図表 4-14 によると、第 2 選択では「経験、教科、特性などの面で、バランスの取れた教員配置が行われにくい」と回答した方が最も多くなり、次いで「出張・研修等に参加しにくい」と回答した方が多くなりました。

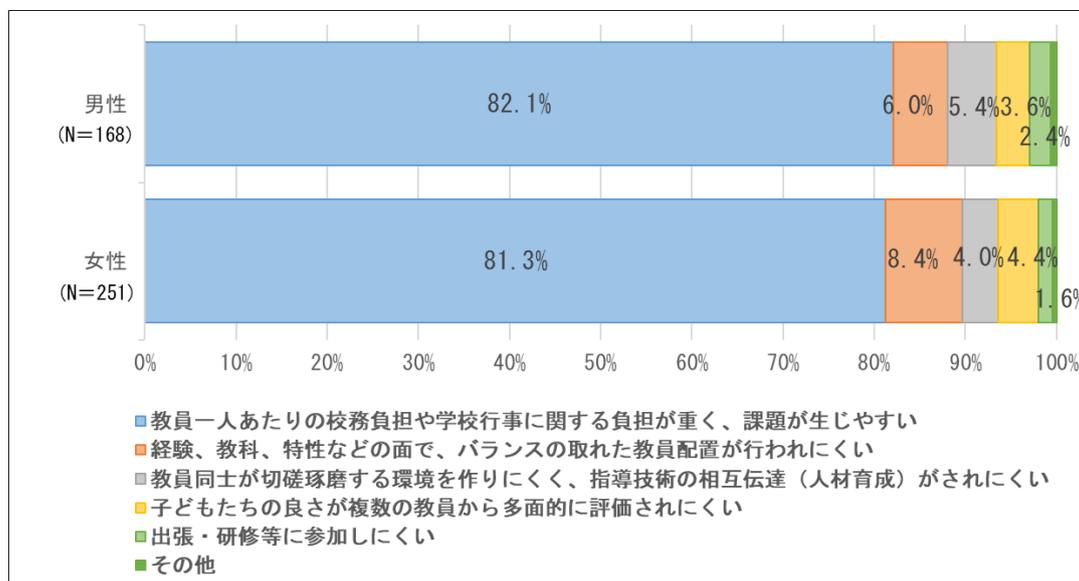


図表 4-13 小規模校において教員が少なくなることによる学校運営上の課題  
(第 1 選択・単純集計) (N = 439)



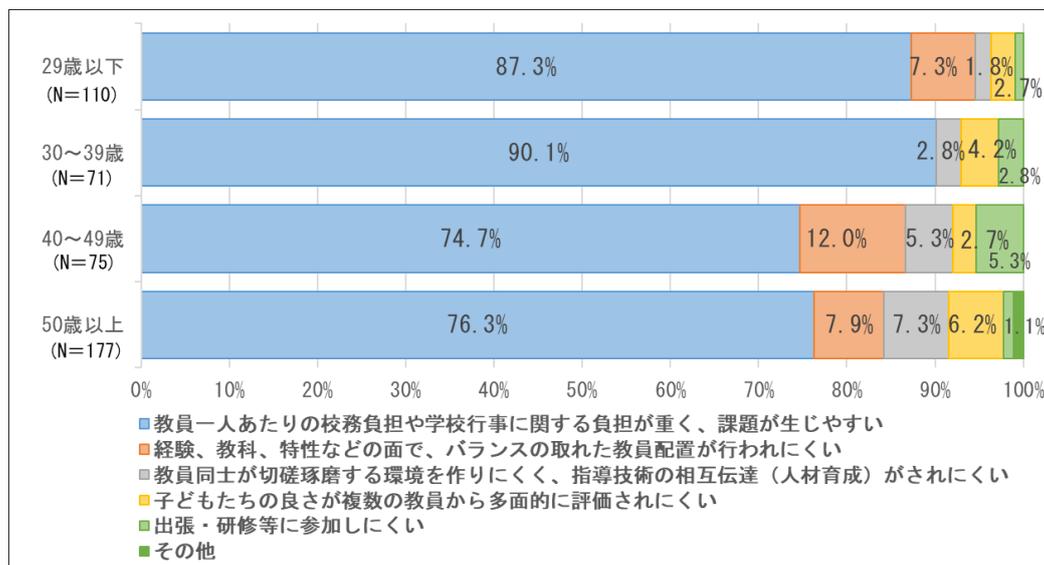
図表 4-14 小規模校において教員が少なくなることによる学校運営上の課題  
(第 2 選択・単純集計) (N = 334)

図表 4-15 によると、男女ともに「教員一人あたりの校務負担や学校行事に関する負担が重く、課題が生じやすい」と回答した方が最も多くなり、次いで「経験、教科、特性などの面で、バランスの取れた教員配置が行われにくい」と回答した比率が高くなりました。



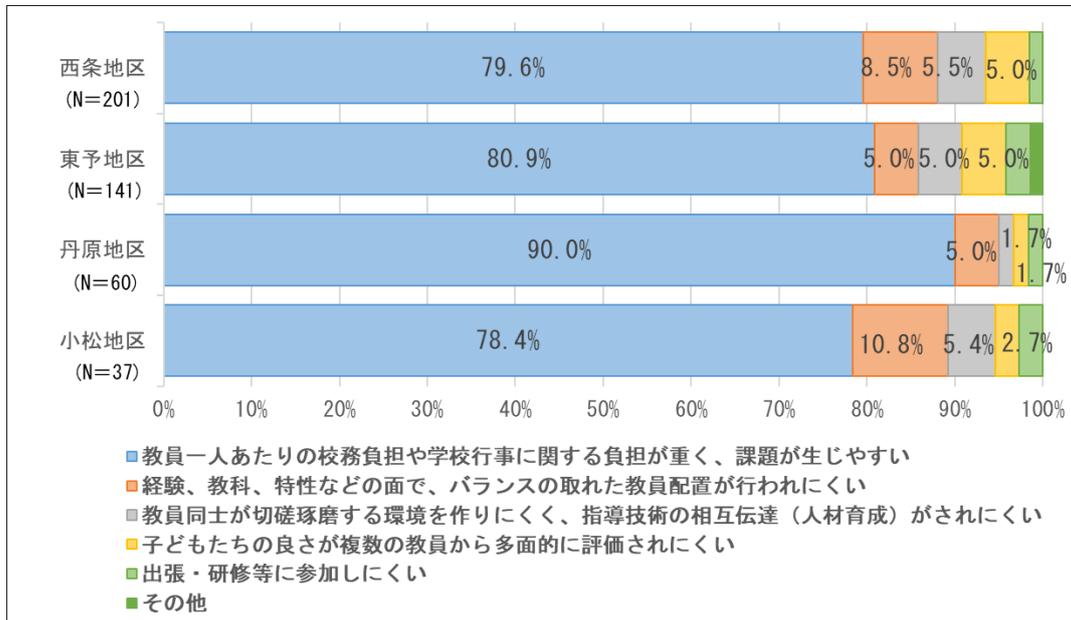
図表 4-15 小規模校において教員が少なくなることによる学校運営上の課題 (第1選択・男女別)

図表 4-16 によると、全体では「教員一人あたりの校務負担や学校行事に関する負担が重く、課題が生じやすい」と回答した比率が最も高く、特に年齢の低い層にその傾向がみられました。また、40～49歳では、「経験、教科、特性などの面で、バランスの取れた教員配置が行われにくい」の回答が他の年齢より多く、50歳以上では、「教員同士が切磋琢磨する環境を作りやすく、指導技術の相互伝達（人材育成）がされにくい」の回答が他の年齢より多い傾向がみられました。



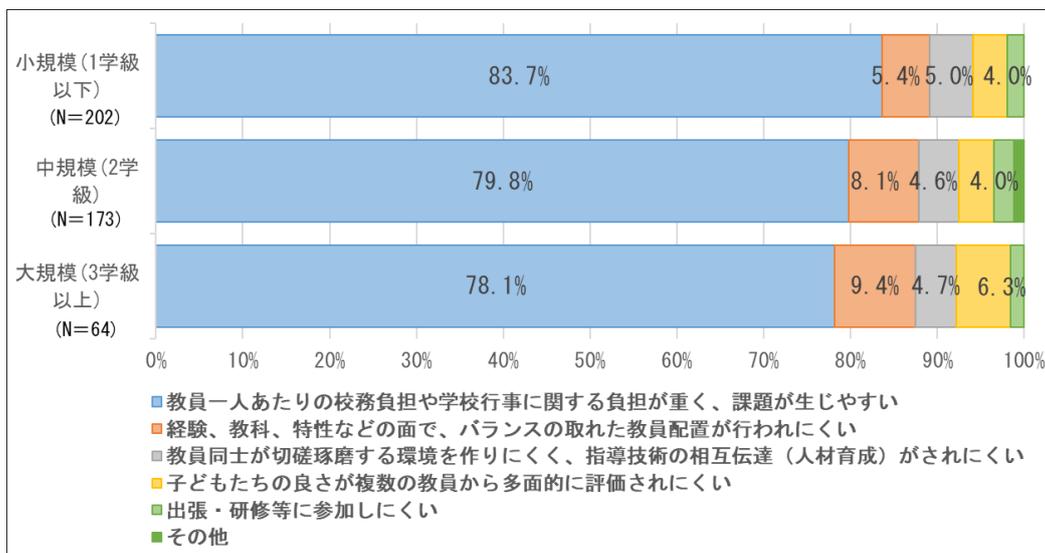
図表 4-16 小規模校において教員が少なくなることによる学校運営上の課題 (第1選択・年齢別)

図表 4-17 によると、すべての地区で「教員一人あたりの校務負担や学校行事に関する負担が重く、課題が生じやすい」と回答した比率が最も高くなる一方で、地区によって回答が異なる傾向がみられました。



図表 4-17 小規模校において教員が少なくなることによる学校運営上の課題  
(第1選択・所属する小学校の地区別)

図表 4-18 によると、小学校の規模にかかわらず、「教員一人あたりの校務負担や学校行事に関する負担が重く、課題が生じやすい」「経験、教科、特性などの面で、バランスの取れた教員配置が行われにくい」と回答した比率が高くなりました。どちらかといえば、学校の規模が小規模になるほど「教員一人あたりの校務負担や学校行事に関する負担が重く、課題が生じやすい」と回答した比率が高く、逆に学校の規模が大規模になるほど「経験、教科、特性などの面で、バランスの取れた教員配置が行われにくい」と回答した比率が高くなる傾向がみられました。



図表 4-18 小規模校において教員が少なくなることによる学校運営上の課題  
(第1選択・所属する小学校の6年生規模別)

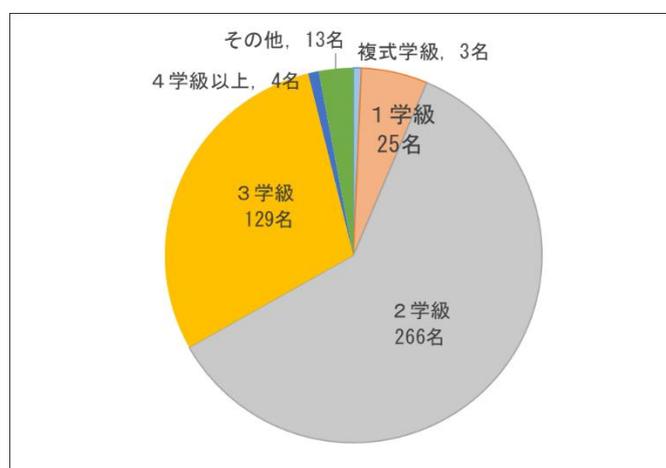
## 5 学級数と児童数について

### 【結果概要】

- 1学年あたり2学級～3学級が適切であるという回答が約9割を占めました。(図表5-1 参照)
- 1学級あたりで適切だと思う児童数では、「21～25人」が65.3%、「11～20人」が20.9%、「26～30人」が12.5%という結果となり、「21～25人」と回答した方が最も多くなりました。(図表5-2 参照)

#### (1) 1学年あたりで適切だと思う学級数

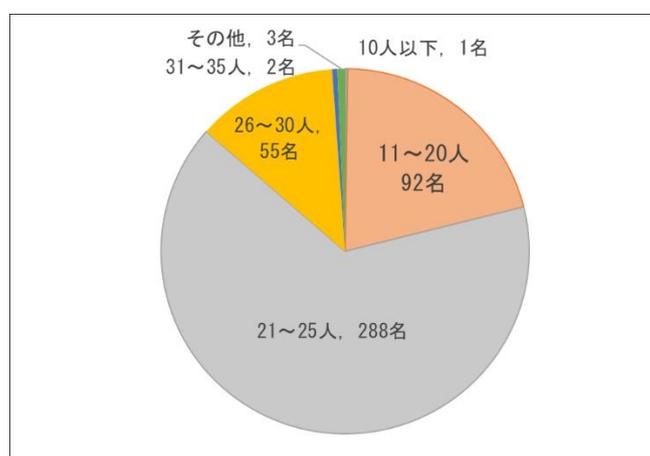
図表5-1によると、「2学級」と回答した方が最も多くなり、次いで「3学級」と回答した方が多くなりました。1学年あたり2学級以上が適切だとした回答が全体の約9割を占める結果となりました。



図表5-1 1学年あたりで適切だと思う学級数（単純集計）（N=440）

#### (2) 1学級あたりで適切だと思う児童数

図表5-2によると、「21～25人」と回答した方が最も多くなり、次いで「11～20人」「26～30人」と回答した方が多くなりました。



図表5-2 1学級あたりで適切だと思う児童数（単純集計）（N=441）

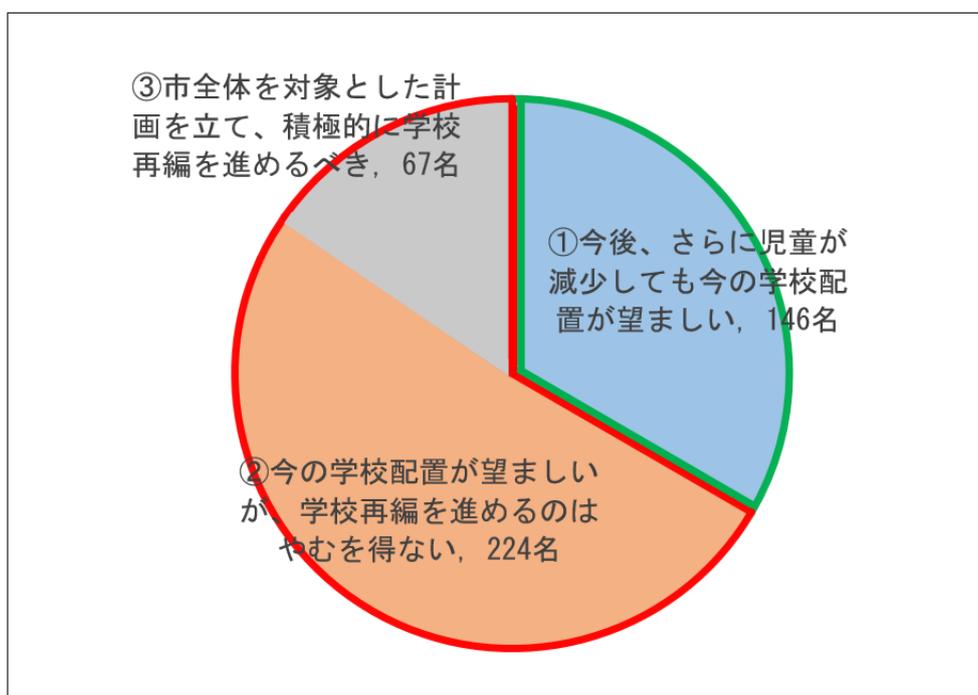
## 6 学校規模適正化に係る学校再編について

(1) 将来的に小学校の再編をどのようにしていくべきか

### 【結果概要】

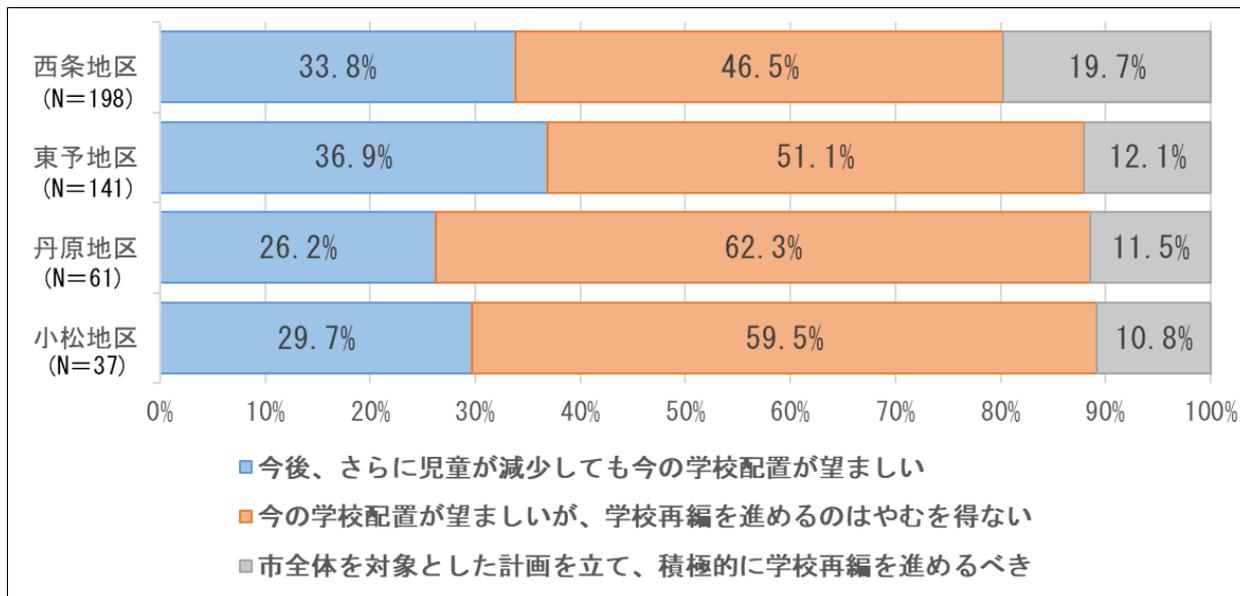
- 今の学校配置が望ましいと回答した方 33.4%に対して、学校再編を進めることはやむを得ない・積極的に学校再編を進めるべきとした回答が 66.6%を占め、学校再編を進めていくことへの回答が多い結果となりました。(図表 6-1 参照)
- 今の学校配置が望ましいと回答した方の理由として、学校は地域の活動拠点であるため学校が無くなることで、地域の衰退に繋がることを懸念されている方の回答が多い傾向がみられました。特に、小松地区や小規模の学校で「学校は地域の活動拠点であるから」と回答する比率が高くなりました。(図表 6-3、6-5、6-6 参照)
- 学校再編を進めることはやむを得ない・積極的に学校再編を進めるべきと回答した方の理由として、適正な教員配置による授業の質の向上や、多くの友達や教員の意見・考えに触れることで多様な価値観を培うことが大切であると回答した方が多くなりました。地区別では、すでに複式学級が導入されている丹原地区でクラス替えができることへの回答が他の地区の比率より高い傾向がみられました。(図表 6-7、6-8、6-9 参照)

図表 6-1 によると、「②今の学校配置が望ましいが、学校再編を進めるのはやむを得ない」と回答した方が最も多くなり、次いで「①今後、さらに児童が減少しても今の学校配置が望ましい」と回答した方が多くなりました。今後、学校再編が必要であるとした回答が全体の約 7 割を占める結果となりました。



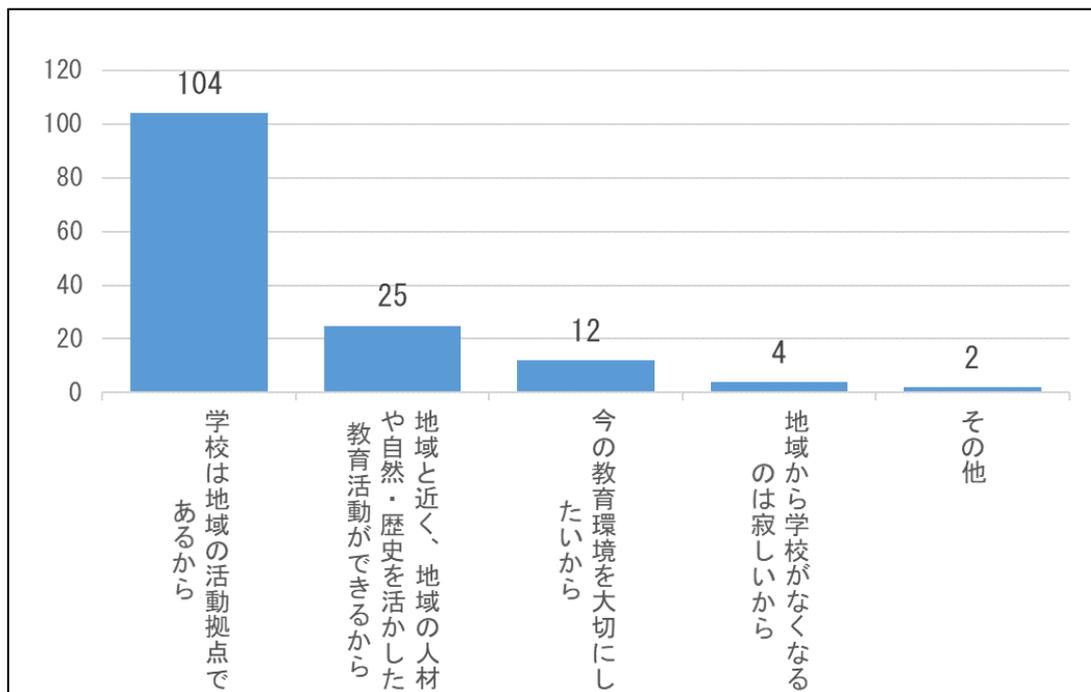
図表 6-1 将来的に望ましいと思う学校配置 (単純集計) (N = 437)

図表 6-2 によると、全体的に学校再編に向けた声が多い中で、特に丹原地区で高い比率での回答がみられました。

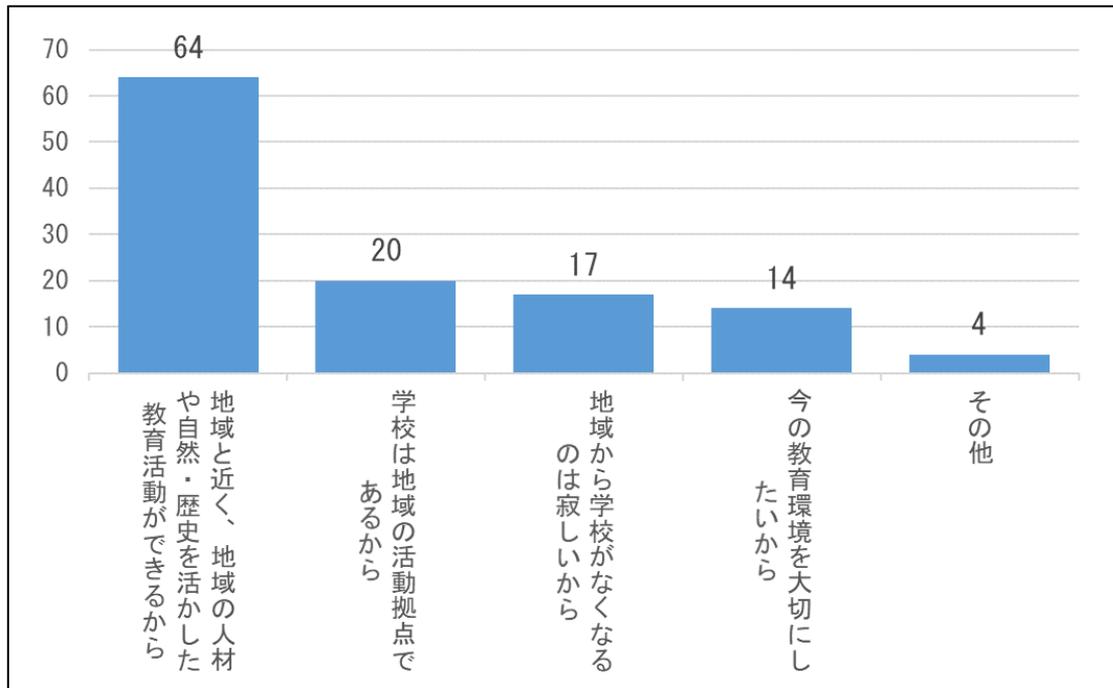


図表 6-2 将来的に望ましいと思う学校配置 (所属する小学校の地区別) (N = 437)

図表 6-3~6-6 は、図表 6-1 で「①今後、さらに児童が減少しても今の学校配置が望ましい」を選択した理由についての回答です。図表 6-3 によると、第 1 選択では「学校は地域の活動拠点であるから」と回答した方が最も多く、また、図表 6-4 によると、第 2 選択では「地域と近く、地域の人材や自然・歴史を活かした教育活動ができるから」と回答した方が最も多くなりました。

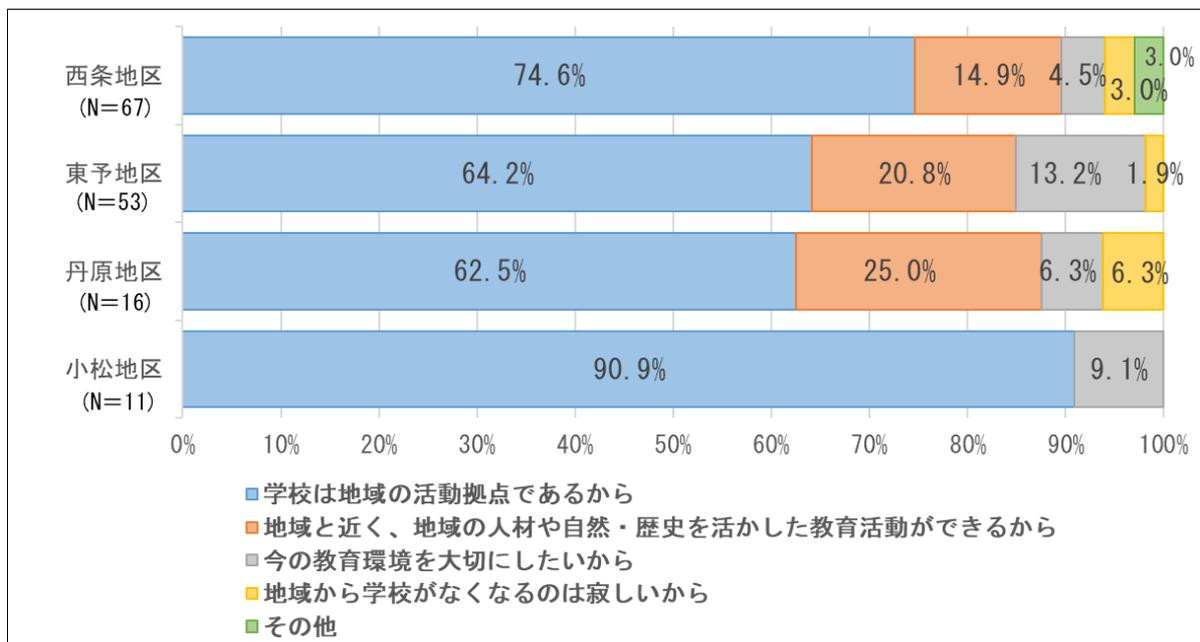


図表 6-3 図表 6-1 で①を選択した方の理由 (第 1 選択・単純集計) (N = 147)



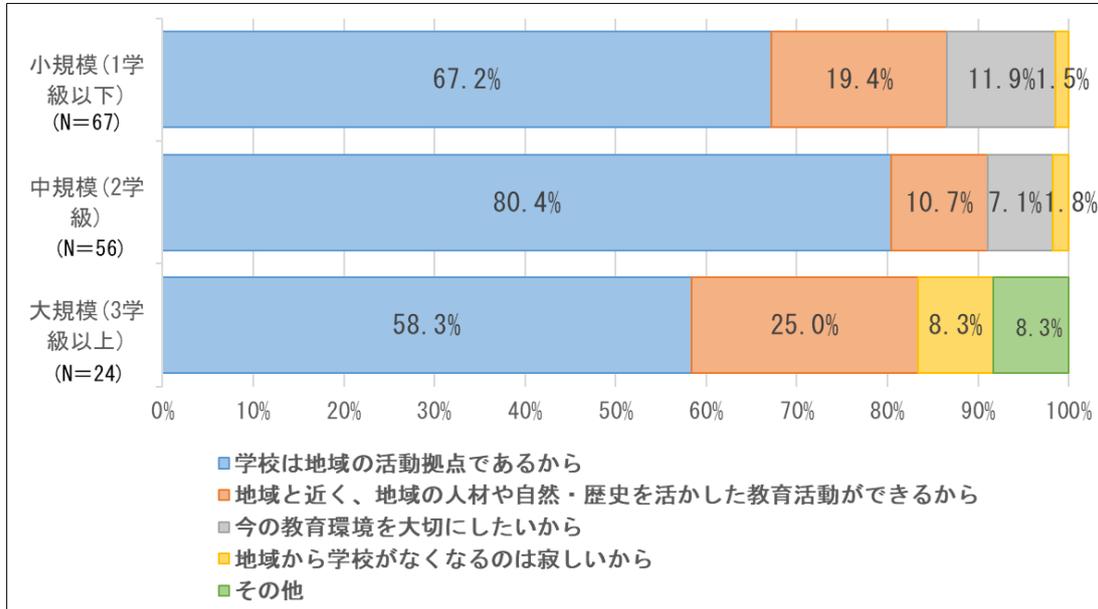
図表 6-4 図表 6-1 で①を選択した方の理由（第2選択・単純集計）（N=119）

図表 6-5 によると、すべての地区で「学校は地域の活動拠点であるから」と回答した比率が最も高く、小松地区では他の地区に比べて特に回答した比率が高くなりました。



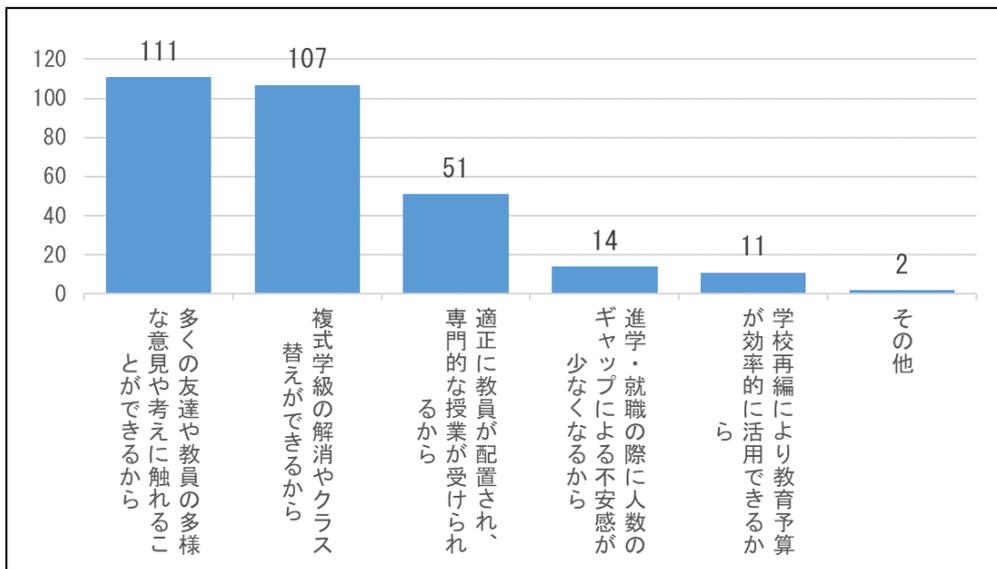
図表 6-5 図表 6-1 で①を選択した方の理由（第1選択・所属する小学校の地区別）

図表 6-6 によると、すべての小学校の規模で「学校は地域の活動拠点であるから」と回答した比率が高く、とくに中規模（2 学級以下）で同回答についての比率が高くなる傾向がみられました。一方、大規模（3 学級以上）では、「地域と近く、地域の人材や自然・歴史を活かした教育活動ができるから」と回答した比率が、小規模（1 学級以下）と中規模（2 学級以下）に比べて高くなる傾向がみられました。

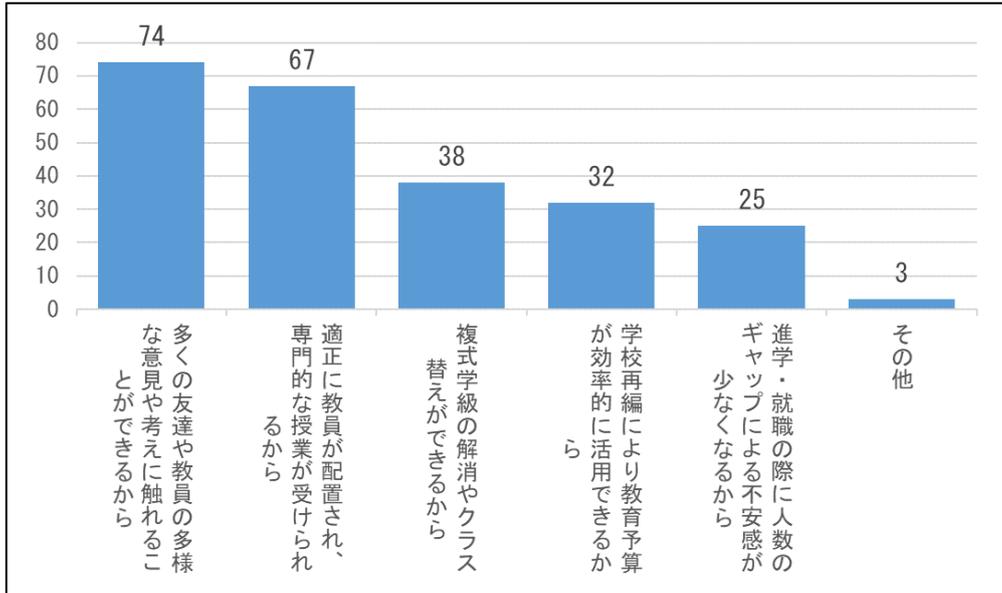


図表 6-6 図表 6-1 で①を選択した方の理由（第 1 選択・所属する小学校の 6 年生規模別）

図表 6-7～6-10 は、図表 6-1 で「②今の学校配置が望ましいが、学校再編を進めるのはやむを得ない」又は「③市全体を対象とした計画を立て、積極的に学校再編を進めるべき」を選択した理由についての回答です。第 1 選択（図表 6-7）、第 2 選択（図表 6-8）ともに「多くの友達や教員の多様な意見や考えに触れることができるから」と回答した方が最も多く、次いで「複式学級の解消やクラス替えができるから」「適正に教員が配置され、専門的な授業が受けられるから」と回答した方が多くなりました。

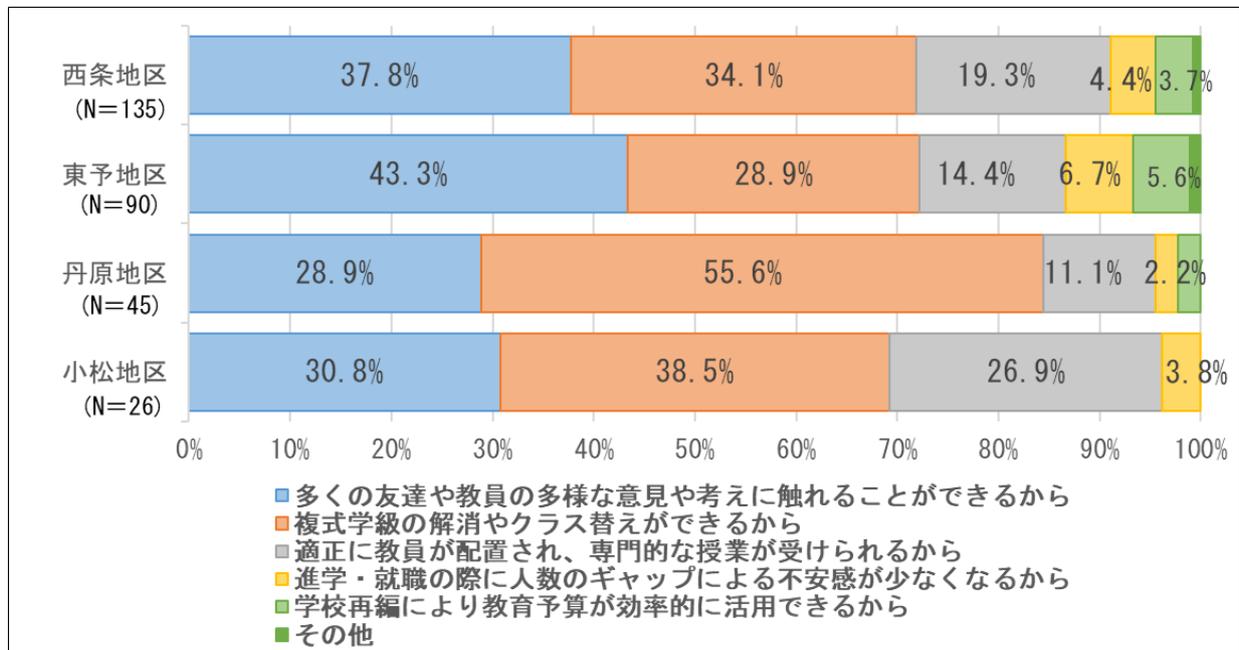


図表 6-7 図表 6-1 で②又は③を選択した方の理由（第 1 選択・単純集計）（N = 296）



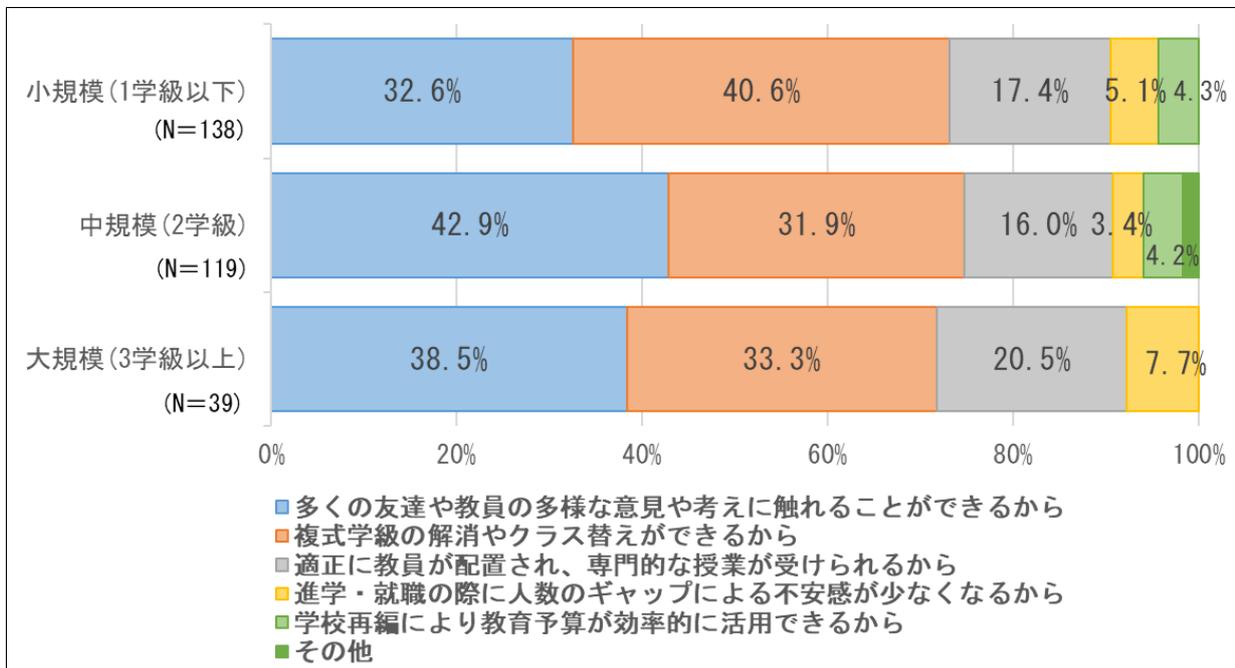
図表 6-8 図表 6-1 で②又は③を選択した方の理由（第2選択・単純集計）（N = 239）

図表 6-9 によると、西条地区及び東予地区では「多くの友達や教員の多様な意見や考えに触れることができるから」と回答した比率が高くなったのに対して、丹原地区及び小松地区では「複式学級の解消やクラス替えができるから」と回答した比率が高くなりました。



図表 6-9 図表 6-1 で②又は③を選択した方の理由（第1選択・所属する小学校の地区別）

図表 6-10 によると、中規模（2 学級以下）と大規模（3 学級以下）では「多くの友達や教員の多様な意見や考えに触れることができるから」と回答した比率が高くなったのに対して、小規模（1 学級以下）では「複式学級の解消やクラス替えができるから」と回答した比率が高くなりました。



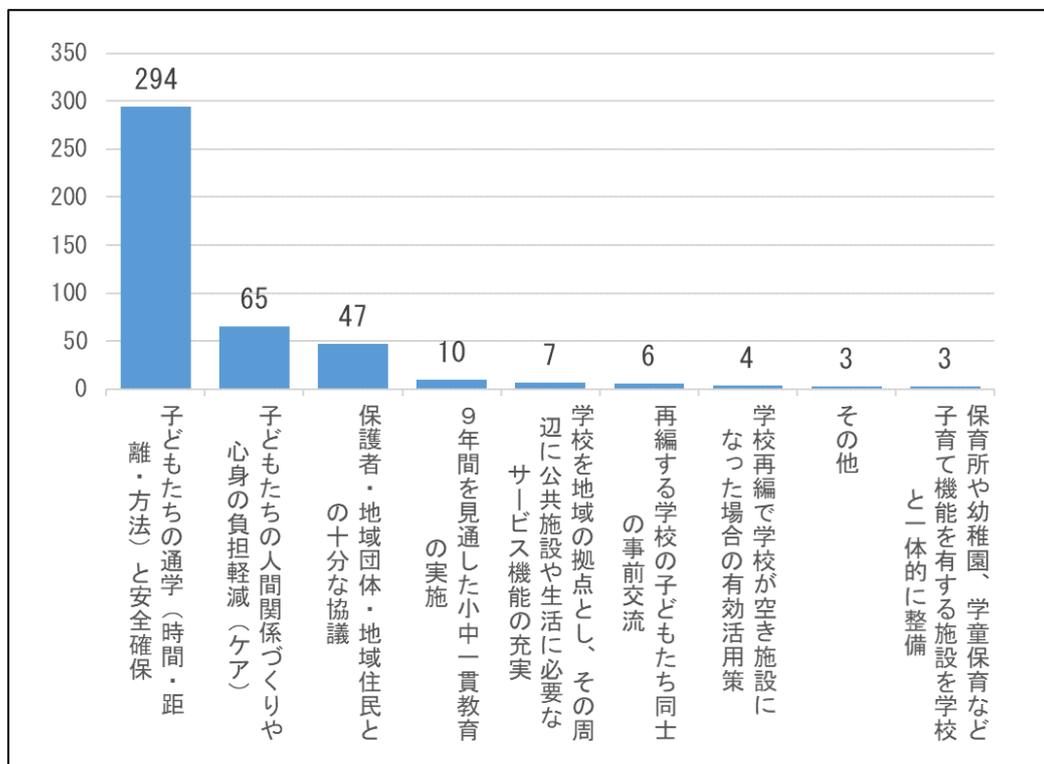
図表 6-10 図表 6-1 で②又は③を選択した方の理由  
(第 1 選択・所属する小学校の 6 年生規模別)

(2) 小学校の学校再編を進める場合に配慮が必要な点

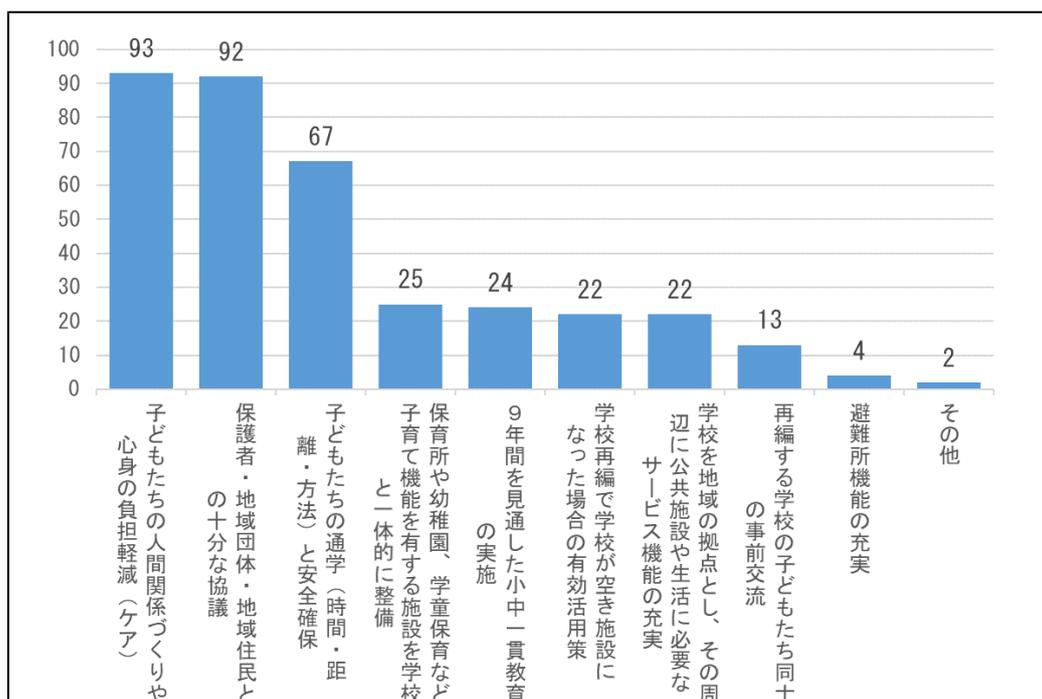
**【結果概要】**

- 子どもたちの通学（時間・距離・方法）と安全確保を望む声が多くなる一方で、子どもたちの人間関係づくりや心身の負担軽減、保護者や地域住民等との十分な協議など、環境が変わることへの配慮を重視した回答も多くなりました。（図表 6-11、6-12 参照）
- 所属する小学校の地区別では、他の地区と比べて小松地区で、通学の安全確保を望む声が多い傾向がみられました。また、小学校の規模別では、小規模及び中規模の学校では、大規模の学校と比べて「保護者・地域団体・地域住民との十分な協議」を求めている傾向がみられました。（図表 6-13、6-14 参照）

図表 6-11 によると、第 1 選択では「子どもたちの通学（時間・距離・方法）と安全確保」と回答した方が最も多くなり、次いで「子どもたちの人間関係づくりや心身の負担軽減（ケア）」と回答した方が多くなりました。また、図表 6-12 によると、第 2 選択では「子どもたちの人間関係づくりや心身の負担軽減（ケア）」、「保護者・地域団体・地域住民との十分な協議」と回答した方が多く、ほぼ同数となりました。

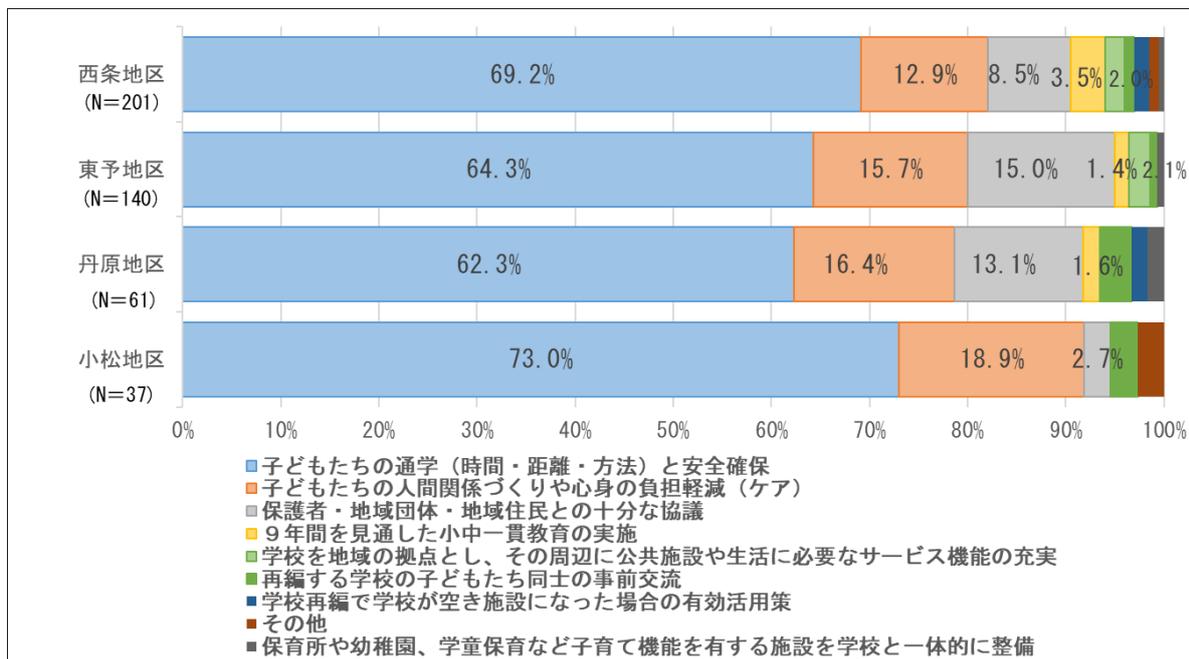


図表 6-11 学校再編を進めるために配慮が必要な点（第 1 選択・単純集計）（N = 439）



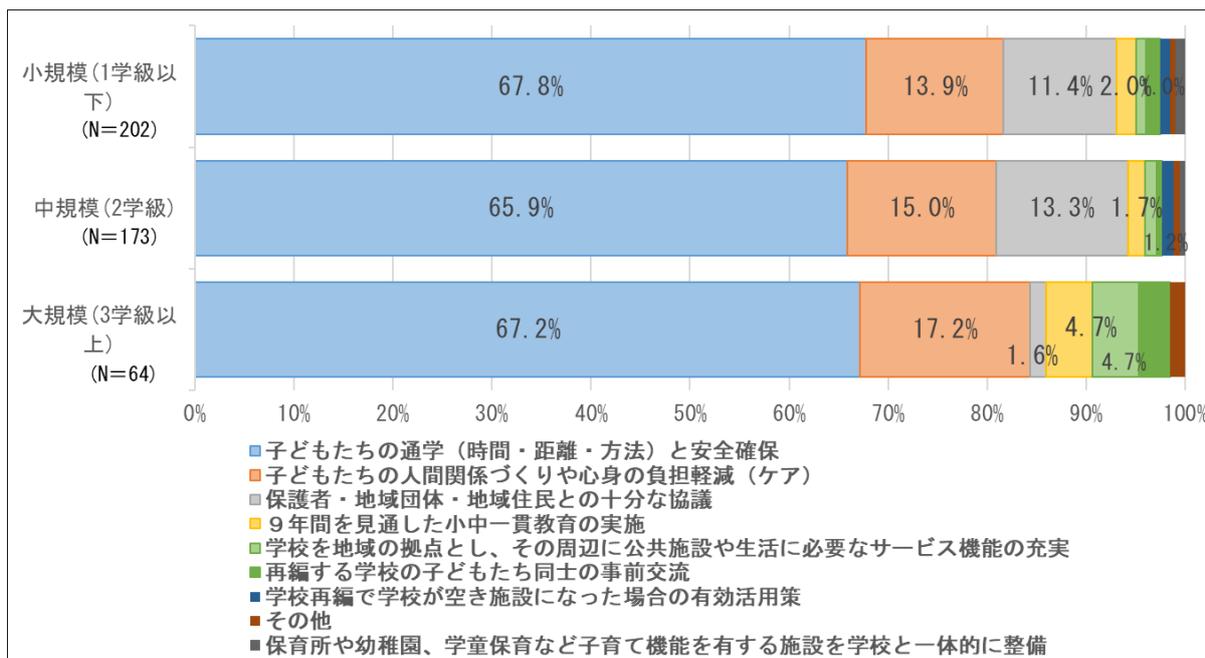
図表 6-12 学校再編を進めるために配慮が必要な点（第 2 選択・単純集計）（N = 364）

図表 6-13 によると、すべての地区で「子どもたちの通学（時間・距離・方法）と安全確保」と回答した比率が最も高くなり、次いで「子どもたちの人間関係づくりや心身の負担軽減（ケア）」と回答した比率が高くなりました。



図表 6-13 学校再編を進めるために配慮が必要な点（第1選択・所属する小学校の地区別）

図表 6-14 によると、すべての小学校の規模で「子どもたちの通学（時間・距離・方法）と安全確保」と回答した比率が最も高くなり、次いで「子どもたちの人間関係づくりや心身の負担軽減（ケア）」と回答した比率が高くなりました。一方、小規模（1学級以下）と中規模（2学級）では、「保護者・地域団体・地域住民との十分な協議」と回答した比率が、大規模（3学級以上）と比べて高くなる傾向がみられました。



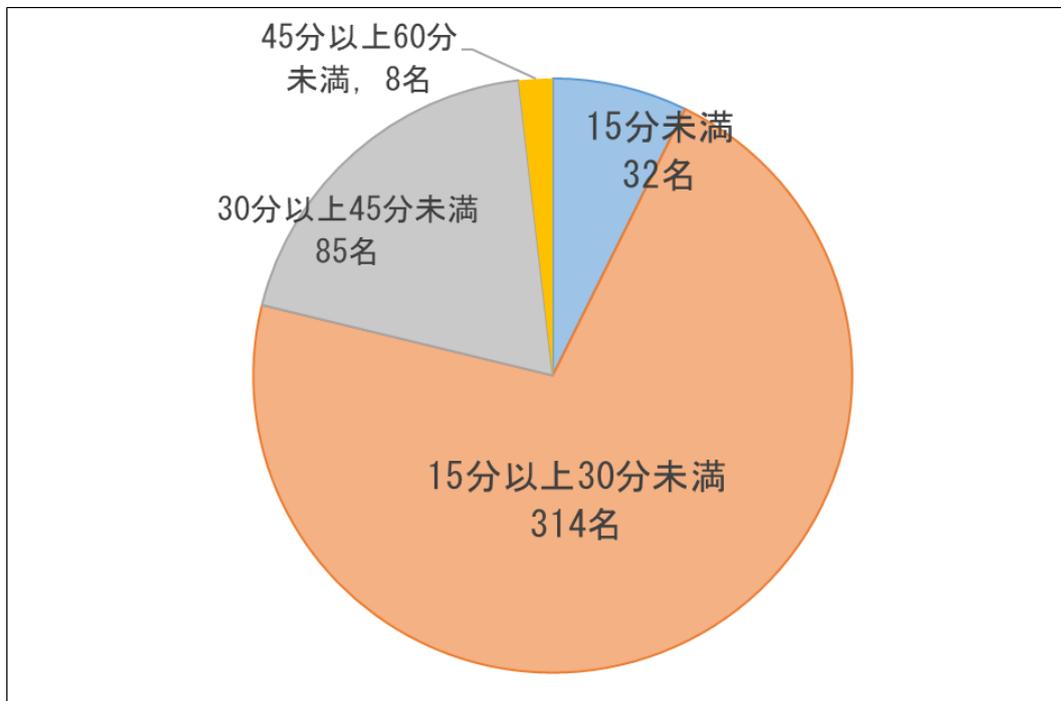
図表 6-14 学校再編を進めるために配慮が必要な点  
（第1選択・所属する小学校の6年生規模別）

(3) 小学校の学校再編を進める場合の通学に関して配慮が必要な点

**【結果概要】**

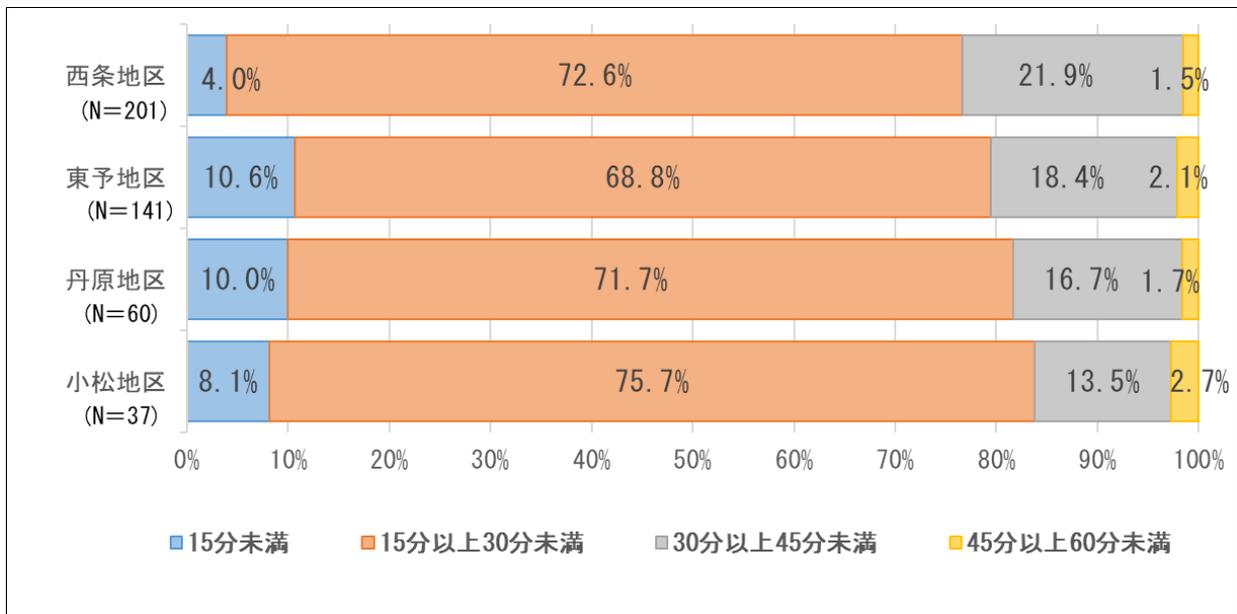
- 児童が安全に通学できる時間の許容範囲は、15分以上30分未満との回答が多い結果となりました。(図表6-15参照)
- 所属する小学校の地区別、規模別で大きな差はみられませんでした。(図表6-16、6-17参照)
- 通学時間の許容範囲で児童が安全に通学するためには、定められた通学区域での学校に限らず、住所から近い学校への通学を認めるべきとした回答が最も多くなる一方で、スクールバスの運行を望む回答も多くなりました。(図表6-18、6-19参照)
- 所属する小学校の地区別、規模別に大きな差異はみられませんが、大規模校では、「自転車の利用を認める(自転車通学を要する地域・距離を拡大)」と回答した比率が高くなる傾向がみられました。(図表6-20、6-21参照)

図表6-15によると、通学にかかる時間の許容範囲は「15分以上30分未満」と回答した方が最も多く、次いで「30分以上45分未満」と回答した方が多くなりました。



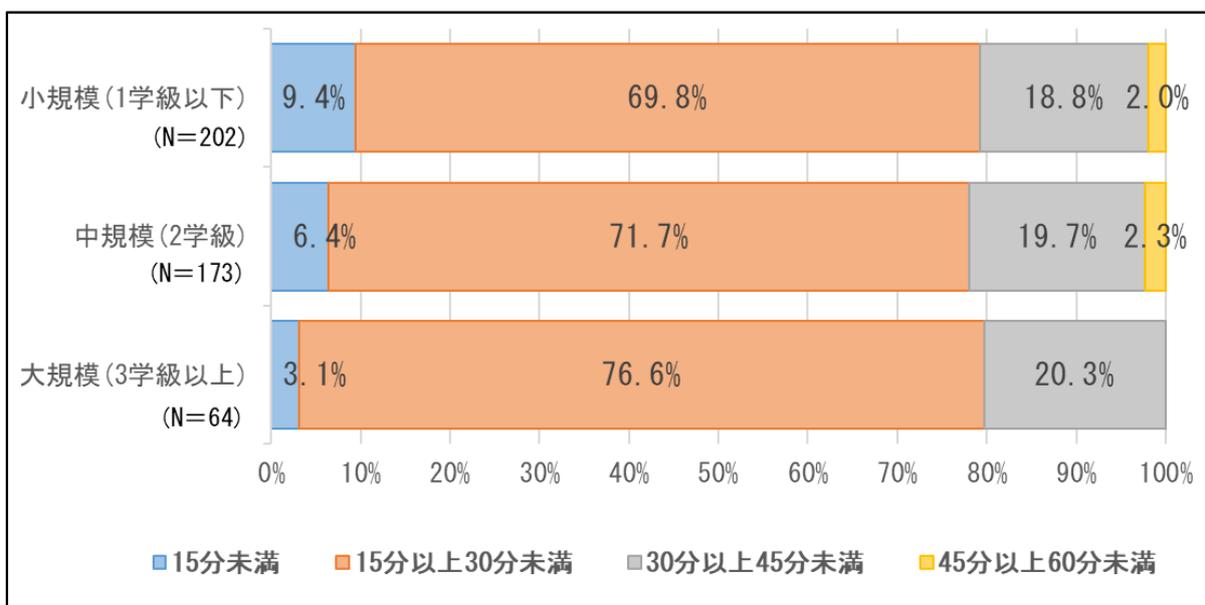
図表6-15 小学生の通学にかかる時間の許容範囲(単純集計)(N=439)

図表 6-16 によると、すべての地区で「15 分以上 30 分未満」と回答した比率が最も高くなり、次いで「30 分以上 45 分未満」と回答した比率が高くなりました。



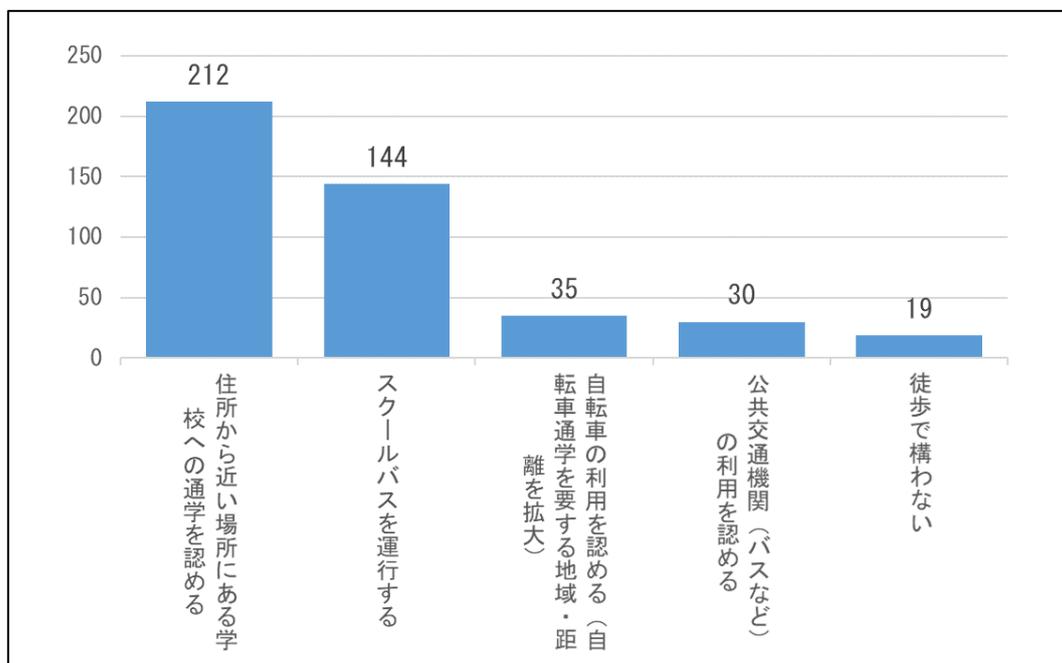
図表 6 - 1 6 小学生の通学にかかる時間の許容範囲（所属する小学校の地区別）

図表 6-17 によると、すべての小学校の規模で「15 分以上 30 分未満」と回答した比率が最も高くなり、次いで「30 分以上 45 分未満」と回答した比率が高くなりました。

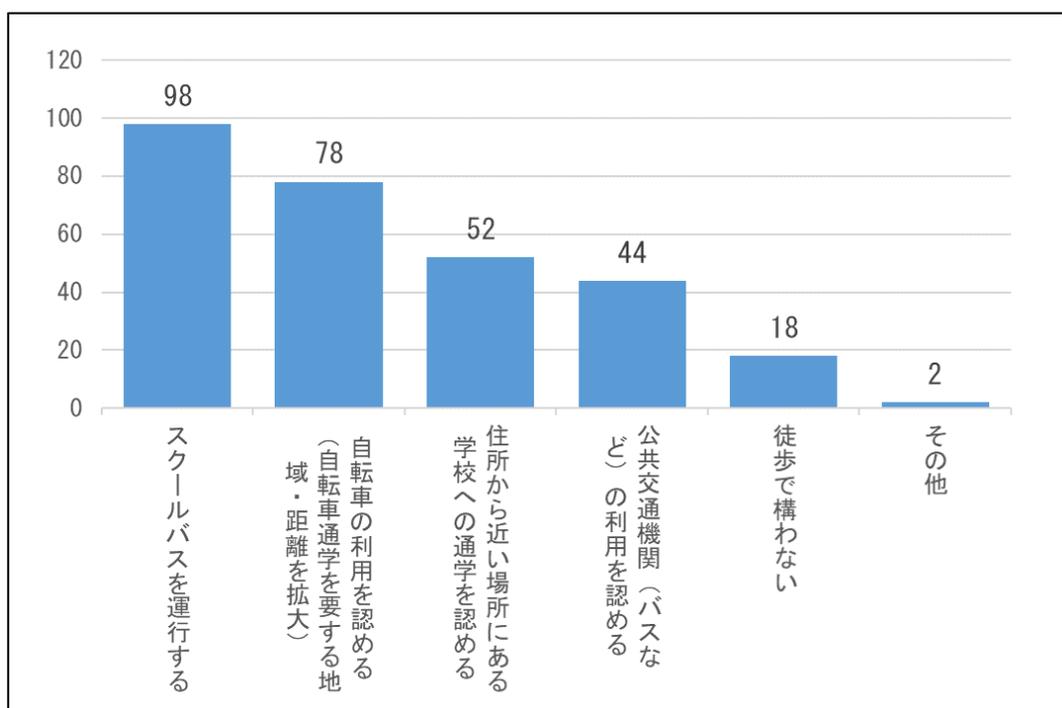


図表 6 - 1 7 小学生の通学にかかる時間の許容範囲（所属する小学校の6年生規模別）

図表 6-18 によると、第 1 選択では「住所から近い場所にある学校への通学を認める」と回答した方が最も多くなり、次いで「スクールバスを運行する」と回答した方が多くなりました。また、図表 6-19 によると、第 2 選択では「スクールバスを運行する」と回答した方が最も多くなり、次いで「住所から近い場所にある学校への通学を認める」と回答した方が多くなりました。

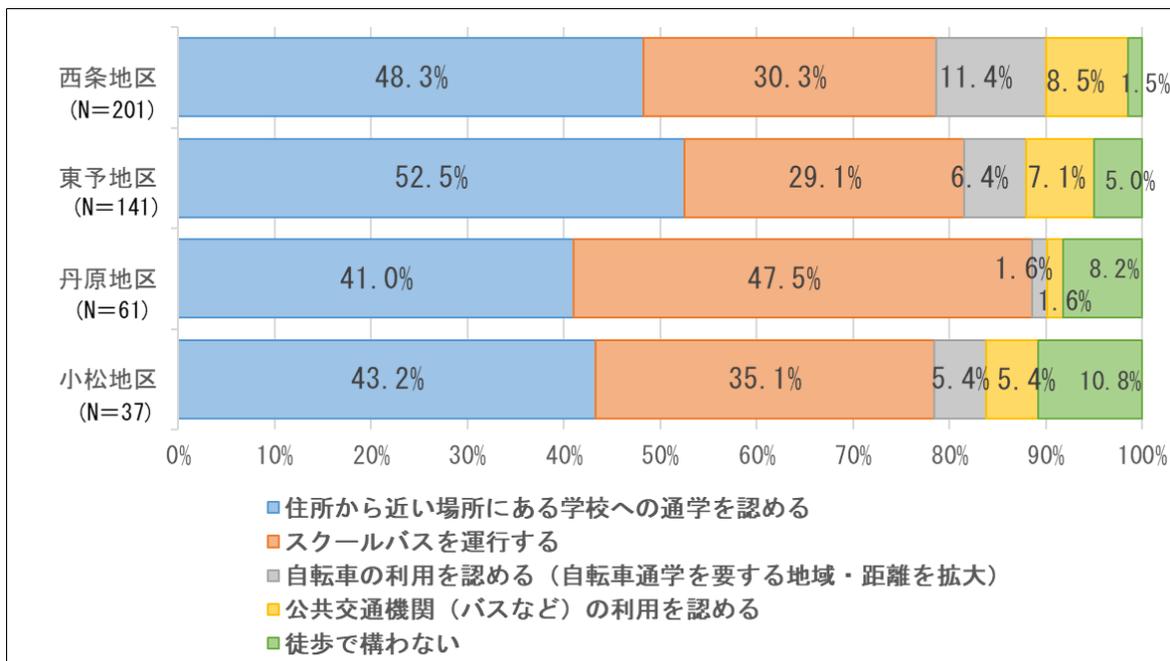


図表 6-18 図表 6-15 で回答した時間で通学するために必要だと思う配慮  
(第 1 選択・単純集計) (N = 440)



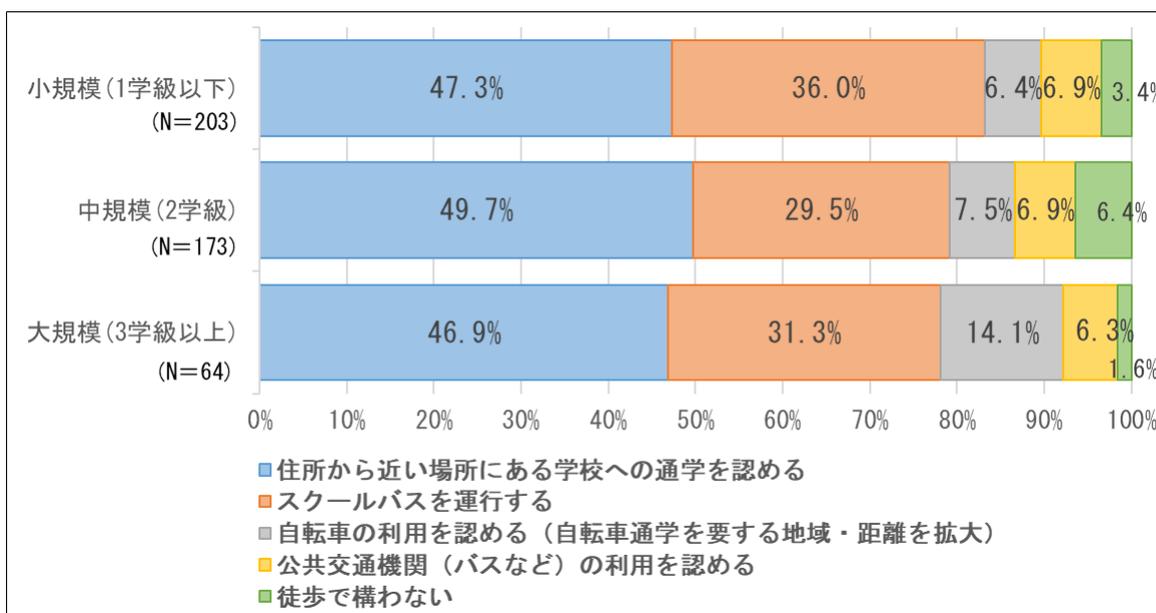
図表 6-19 図表 6-15 で回答した時間で通学するために必要だと思う配慮  
(第 2 選択・単純集計) (N = 292)

図表 6-20 によると、西条地区・東予地区・小松地区では「住所から近い場所にある学校への通学を認める」と回答した比率が最も高くなりました。一方、丹原地区では「スクールバスを運行する」と回答した比率が最も高くなりました。



図表 6-20 図表 6-15 で回答した時間で通学するために必要だと思う配慮 (所属する小学校の地区別)

図表 6-21 によると、すべての小学校の規模で「住所から近い場所にある学校への通学を認める」と回答した比率が最も高くなり、次いで「スクールバスを運行する」と回答した比率が高くなりました。また、大規模 (3 学級以上) は、小規模 (1 学級以下) 及び中規模 (2 学級) と比べると、「自転車の利用を認める (自転車通学を要する地域・距離を拡大)」と回答した比率が高くなる傾向がみられました。



図表 6-21 図表 6-15 で回答した時間で通学するために必要だと思う配慮 (所属する小学校の 6 年生規模別)

## 7 参考資料（アンケート用紙）

西条市の学校規模適正化に関するアンケート調査へのご協力をお願い  
(小学校 教員用(校長先生、教頭先生も含みます))  
～みなさまのご意見をお聞かせください～

西条市では、令和2年度に実施した「西条市の教育に関するアンケート調査」において、将来的な子どもたちの教育環境の充実を図るためには、一定程度の児童数・学級数が必要であるとの回答が多い傾向がみられ、西条市総合教育会議において、人口減少・少子高齢化社会の進展を見据えた今後の教育環境のあり方について議論を進めてきました。

そこで、西条市の次代を担う子どもたちの将来的な学校教育環境の最適化を図ることを目的に、学校規模適正化に関するアンケート調査を実施することとしました。

つきましては、お忙しいところ誠に恐縮ですが、この調査の趣旨をご理解の上、ご協力くださいますようお願い申し上げます。

令和4年9月 西条市長 玉井 敏久 西条市教育長 伊藤 隆志

### 調査の概要

- 1 この調査用紙は、西条市立の小学校に勤務されている教員の方を対象（事務員除く）に配布しています。
- 2 この調査票は、個人を特定できないようになっており、調査終了後は速やかに廃棄いたします。  
  
日ごろ、感じていることや思っていることをそのままご記入ください。
- 3 必ずご本人がご回答ください。
- 4 ご記入後、「調査票」を返信用の封筒に入れて、9月29日(木曜日)までに各学校で集約していただき、以下の担当までご返送ください。
- 5 ご不明な点などがありましたら、下記の担当へお問い合わせください。

※本アンケートにつきましては、西条市の学校規模適正化検討の基礎資料として活用させていただきます。

令和2年度

「西条市の教育に関するアンケート調査」の結果は  
こちらから



〒793-8601

西条市明屋敷164番地

西条市 経営戦略部 政策企画課

TEL : (0897) 56-5151 (内線2179)

E-mail : seisakukikaku@saijo-city.jp

西条市 教育委員会事務局 教育総務課

TEL : (0897) 56-5151 (内線5222)

E-mail : kyoikusomu@saijo-city.jp

## アンケート回答の参考に、ご一読ください。

西条市立小・中学校の児童・生徒数の推計について（第2期 西条市総合計画後基本計画（第2期西条市まち・ひと・しごと創生総合戦略）より抜粋）

### (1) 小学校児童数の推計

西条市の小学校児童数は減少し続け、2010年時点で1学年あたり1,000人を超えていた児童数が2045年時点で557人と約半分まで減少します。

図1 西条市の全小学校児童数（7～12歳）及び1学年児童数の推移  
(単位：人)



出典：2010年及び2015年国勢調査を参考に西条市自治政策研究所が作成

### (2) 中学校生徒数の推計

西条市の中学校生徒数は減少し続け、2010年時点で1学年あたり1,000人を超えていた生徒数が、2045年時点で558人と小学校児童数と同様に約半分まで減少します。

図2 西条市の全中学校生徒数（13～15歳）及び1学年生徒数の推移  
(単位：人)



出典：2010年及び2015年国勢調査を参考に西条市自治政策研究所が作成

小学校においては、児童数 60 人（1 学年あたり 10 人）を基準とした場合、基準を下回る学校が 2045 年には 10 校まで増加します。また、中学校においては、生徒数 60 人（1 学年あたり 20 人）を基準とした場合、基準を下回る学校は 1 校のみですが、2045 年までに全小・中学校で児童・生徒数が減少します。

表1 西条市の小学校区別児童数および中学校区別生徒数の変化 (単位:人)

区分	学校名	2010年	2015年	2020年	2025年	2030年	2035年	2040年	2045年	増減 2045年-2010年
小 学 校	玉津	536	514	509	502	504	499	485	486	△50
	飯岡	304	343	326	283	226	184	197	206	△98
	西条	602	527	413	409	448	461	429	355	△247
	神拝	935	823	653	538	503	505	474	388	△547
	大町	575	575	557	500	454	391	366	369	△206
	神戸	206	192	188	176	150	131	115	116	△90
	禎瑞	71	80	86	78	55	40	41	46	△25
	橋	111	108	101	83	67	56	51	50	△61
	氷見	217	181	156	134	102	78	67	60	△157
	周布	194	179	159	143	128	104	88	77	△117
	吉井	111	111	131	154	119	89	89	101	△10
	多賀	314	287	248	223	194	174	156	137	△177
	壬生川	309	284	260	246	226	201	175	155	△154
	国安	218	191	187	163	151	142	128	123	△95
	吉岡	147	128	131	141	130	106	92	87	△60
	楠河	129	105	97	88	70	61	55	47	△82
	三芳	137	113	86	74	68	67	61	42	△95
	庄内	102	92	84	64	44	30	25	23	△79
	丹原	323	281	254	239	233	230	206	181	△142
	徳田	72	64	61	70	59	38	29	28	△44
田野	122	101	77	68	61	53	44	35	△87	
中川	124	116	85	63	46	32	29	25	△99	
田滝	7	11	11	5	4	1	1	2	△5	
小松	345	340	306	266	235	197	187	175	△170	
石根	111	91	98	82	61	47	34	29	△82	
中 学 校	西条東	410	410	414	399	376	347	329	331	△79
	西条西	204	188	173	160	135	100	81	76	△128
	西条南	400	356	358	337	307	273	236	224	△176
	西条北	698	686	573	457	420	426	433	392	△306
	東予東	450	434	393	376	358	303	263	235	△215
	東予西	199	171	160	155	148	136	120	106	△93
	河北	200	165	138	120	99	80	72	63	△137
	丹原東	263	245	207	187	179	165	149	128	△135
	丹原西	59	59	50	36	28	19	14	13	△46
	小松	244	213	206	187	162	136	113	105	△139

◆ 次のページからアンケート調査の設問になります ◆

# 西条市の学校規模適正化に関するアンケート調査票

最初に、回答されるあなたご自身についておたずねします。

※ あてはまるものを1つ選び数字を○で囲んでください。

問1 あなたの性別を教えてください。(＊性別に関する設問の回答は任意です。)

- |      |      |         |
|------|------|---------|
| ① 男性 | ② 女性 | ③ 回答しない |
|------|------|---------|

問2 あなたの年齢を教えてください。

- |          |          |          |          |
|----------|----------|----------|----------|
| ① 29歳以下  | ② 30～34歳 | ③ 35～39歳 | ④ 40～44歳 |
| ⑤ 45～49歳 | ⑥ 50～54歳 | ⑦ 55～59歳 | ⑧ 60～64歳 |
| ⑨ 65～69歳 | ⑩ 70歳以上  |          |          |

問3 あなたが勤務されている小学校を教えてください。

- |      |      |       |      |      |
|------|------|-------|------|------|
| ① 玉津 | ② 飯岡 | ③ 西条  | ④ 神拝 | ⑤ 大町 |
| ⑥ 神戸 | ⑦ 禎瑞 | ⑧ 橘   | ⑨ 氷見 | ⑩ 周布 |
| ⑪ 吉井 | ⑫ 多賀 | ⑬ 壬生川 | ⑭ 国安 | ⑮ 吉岡 |
| ⑯ 庄内 | ⑰ 三芳 | ⑱ 楠河  | ⑲ 丹原 | ⑳ 徳田 |
| ㉑ 田野 | ㉒ 中川 | ㉓ 田滝  | ㉔ 小松 | ㉕ 石根 |

以下をご参考のうえ、続く設問にお答えください。

◇小・中学校の学級数については、標準とする学級数が下表のとおり法令で定められています。

	小学校	中学校
標準とする学級数	1学年あたり2～3学級 (1校あたり12～18学級)	1学年あたり4～6学級 (1校あたり12～18学級)

・児童生徒数が著しく少ない場合においては、複数の学級を1つの学級とする「※複式学級」を編制することとなります。

◇西条市においては、小学校では8割、中学校では7割の学校が、標準とする学級数を下回る小規模校となっています。

↓ここからが設問になります。↓

問4 あなたが、これまで法令で定める標準を下回る学級数（1校あたり11学級以下）の学校で勤務した経験の有無を選んでください。

① あり	② なし
------	------

問5 西条市内の今の小学校数や学校規模についてお聞きします。

①～②の項目について、あなたの考え方に近い選択肢を選んでください。

項目		選 択 肢				
		そう思う	少し思う	どちらでもない	あまり思わない	そう思わない
(記入例) ○○○について○○○と感じる	➡	5	4	3	2	1
ここから下が設問です						
① 小さい規模の小学校が多いと感じる	➡	5	4	3	2	1
② 20年前に比べると子どもの数が少なくなったと感じる	➡	5	4	3	2	1
③ その他 ( )						

問6 小規模校（1校あたり11学級以下の小学校）の良さについて、あてはまるものを順番に選択してください。

※第二選択欄は該当する回答がある場合のみ記入してください。

- ① 子どもたちの人間関係が深まりやすい
- ② 子ども一人ひとりの活躍の機会が増える
- ③ 教員の目が届きやすく、きめ細かな指導を受けやすい
- ④ 学年を超えた教育・交流活動の機会が多くなりやすい
- ⑤ 機器など授業で使用する教具が一人ひとりに行き渡りやすい
- ⑥ 学校・地域・保護者が一体となった活動がしやすい
- ⑦ その他 ( )

第一選択欄
第二選択欄





問 13 **問 11 で②または③を選択した方にお聞きします。** 問 11 で②または③を選択した理由として、あてはまるものを順番に選択してください。

※第二選択欄は該当する回答がある場合のみ記入してください。

- ① 複式学級の解消やクラス替えができるから
- ② 多くの友達や教員の多様な意見や考えに触れることができるから
- ③ 適正に教員が配置され、専門的な授業が受けられるから
- ④ 進学・就職の際に人数のギャップによる不安感が少なくなるから
- ⑤ 学校再編により教育予算が効率的に活用できるから
- ⑥ その他 ( )

第一選択欄
第二選択欄

またここからの設問は、すべての方におたずねします

問 14 学校再編を進めるには、どのような点に配慮すべきだと思いますか。あてはまるものを順番に選択してください。

※第二選択欄は該当する回答がある場合のみ記入してください。

- ① 子どもたちの通学（時間・距離・方法）と安全確保
- ② 子どもたちの人間関係づくりや心身の負担軽減（ケア）
- ③ 9年間を見通した小中一貫教育の実施
- ④ 再編する学校の子どもたち同士の事前交流
- ⑤ 保育所や幼稚園、学童保育など子育て機能を有する施設を学校と一体的に整備
- ⑥ 学校再編で学校が空き施設になった場合の有効活用策
- ⑦ 避難所機能の充実
- ⑧ 学校を地域の拠点とし、その周辺に公共施設や生活に必要なサービス機能の充実
- ⑨ 保護者・地域団体・地域住民との十分な協議
- ⑩ その他 ( )

第一選択欄
第二選択欄

問 15 小学生の通学時間は、どのくらいの時間までが許容範囲だと思いますか。

※選択した番号を1つ選択欄に記入してください。

- ① 15分未満
- ② 15分以上 30分未満
- ③ 30分以上 45分未満
- ④ 45分以上 60分未満
- ⑤ 60分以上

選択欄

